

令和4年度

# 大磯町教育委員会 の 点検・評価

(令和3年度対象)

大磯町教育委員会

令和4年11月

## 目次

### はじめに

1 教育委員会とは	P 2
2 点検・評価の趣旨	P 3
3 点検・評価の対象	P 3
4 点検・評価の流れ	P 4

### I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 令和3年度教育委員会活動一覧	P 5
2 項目別活動状況	P 6
3 項目別点検・評価（内部評価）	P 2 3
4 学識経験者による評価（外部評価）	P 2 8

### II 「令和3年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 学校教育	P 3 6
2 生涯学習	P 4 2
3 図書館	P 4 5
4 郷土資料館	P 4 8

### III 資料編

1 関係法令	P 5 0
2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 5 0
3 令和3年度教育委員会基本方針	P 5 1

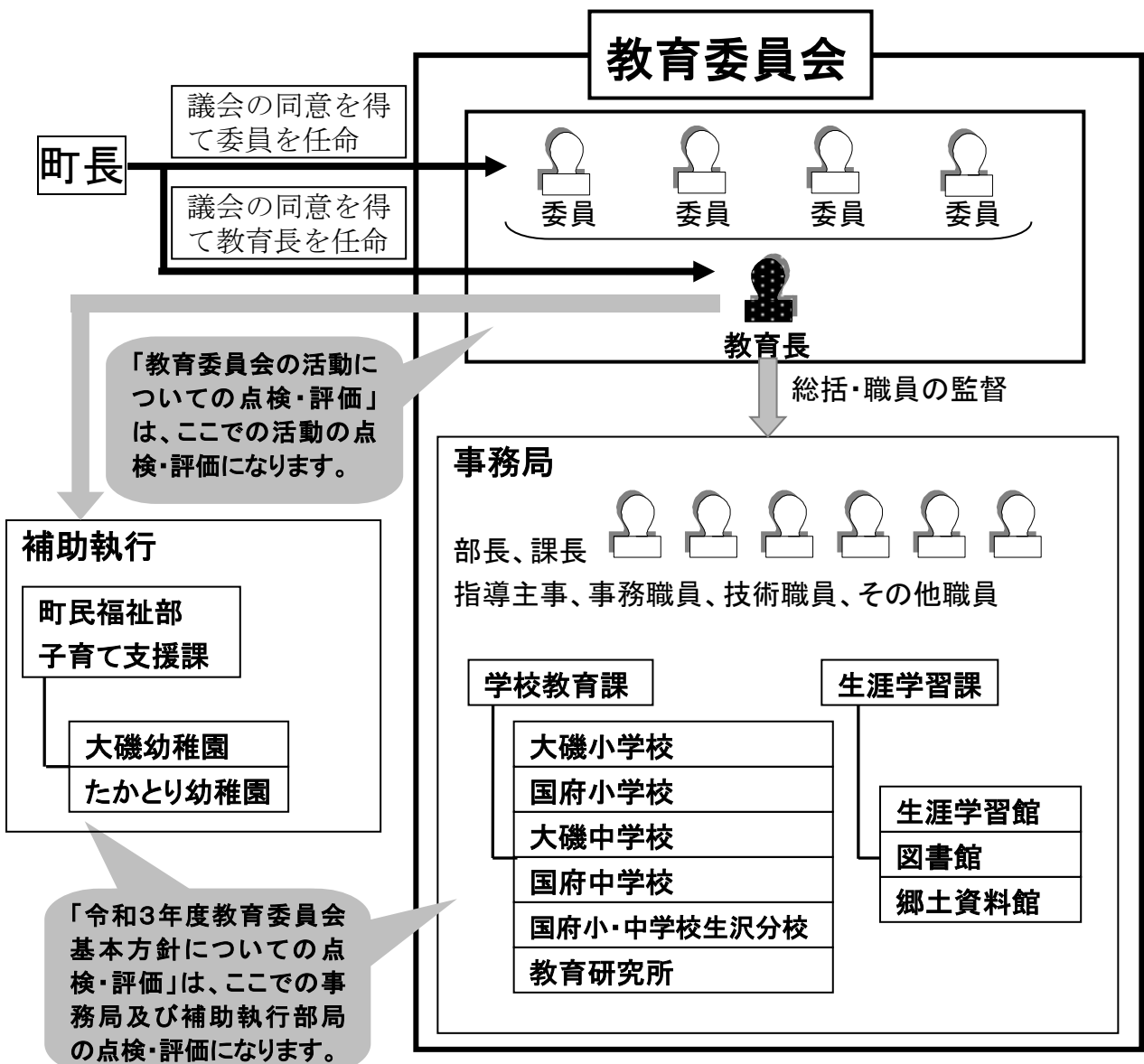
# はじめに

## 1 教育委員会とは

### (1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって構成されています。
- 大磯町教育委員会教育長及び委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育長の任期は3年、委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表（会議の主宰者、具体的な事務執行の責任者、事務局の指揮監督者）します。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に事務局が置かれています。事務局の内部組織は、教育委員会の規則で定められています。



## (2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

## 2 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

## 3 点検・評価の対象

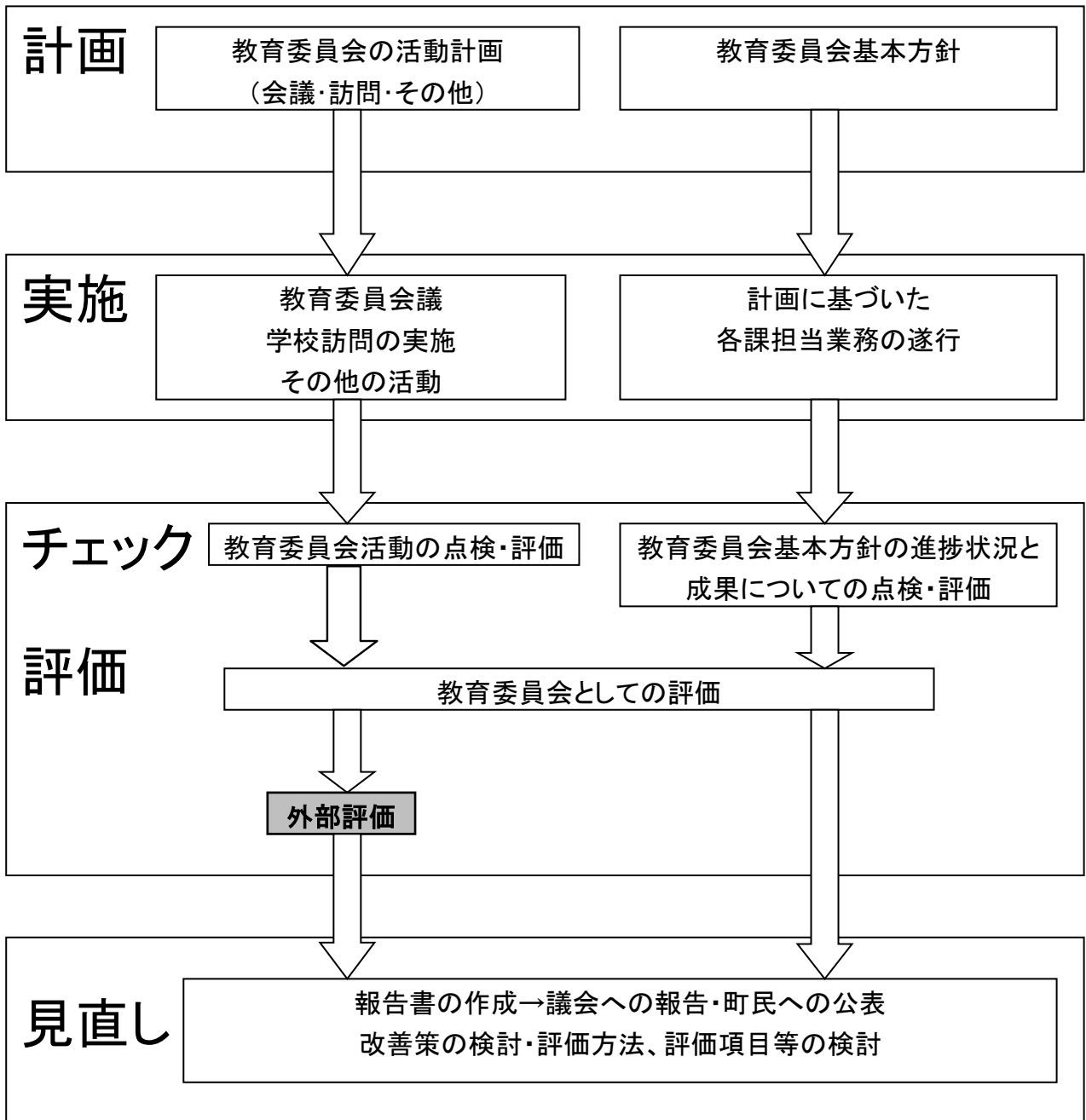
### (1) 教育委員会の活動についての点検・評価

令和3年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者から内部評価の妥当性や指導・助言など外部評価をいただきました。

### (2) 「令和3年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

令和3年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

#### 4 点検・評価の流れ



# I 教育委員会の活動についての点検・評価

## 1 令和3年度教育委員会活動一覧

会議名		内容等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	0回
事務連絡調整会議		12回（定例会開催後）
総合教育会議		2回（7月、12月）
意見交換会・懇談会	PTA役員	未実施
	社会教育委員	未実施
	地域住民・保護者	未実施
訪問	幼稚園・保育園	2回（5月、7月）
	学校	4回（6月、9月、10月、11月）
	その他教育施設	1回（8月）
	行事等	運動会・体育祭、文化祭・保育発表会等、入学式・卒業式等、生涯学習関連事業、教育研究所関係事業、その他町行事等
その他の活動	神奈川県市町村教育委員会連合会役員会・総会・意見交換会	中止（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
	関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会	中止（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
	神奈川県市町村教育委員会連合会研修会	中止（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）

## 2 項目別活動状況

### (1)教育委員会議

令和3年度

第1回定例会〔令和3年4月22日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	大磯町いじめ問題対策・調査委員会委員の委嘱について
	議案第2号	大磯町社会教育委員の委嘱について
	議案第3号	大磯町図書館協議会委員の任命について
協議事項	協議事項第1号	小学校給食調理業務等委託について
報告事項	報告事項第1号	令和3年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第2号	大磯町教育施設等長寿命化計画（学校教育施設）について
	報告事項第3号	大磯町青少年指導員の委嘱について
	報告事項第4号	町立大磯幼稚園の民営化による公私連携幼保連携型認定こども園への移行について

第2回定例会〔令和3年5月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第4号	令和3年6月補正予算における教育委員会関連予算要求について
報告事項	報告事項第1号	令和2年度大磯町一般会計繰越明許費繰越計算書について
	報告事項第2号	令和2年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第3号	教育委員会事務局職員の人事異動について
	報告事項第4号	生涯学習課事務室の移転について

第3回定例会〔令和3年6月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第5号	大磯町指定有形文化財への指定に伴う諮問について
	議案第6号	大磯町いじめ問題対策・調査委員会委員の委嘱について
	議案第7号	令和4年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について

第4回定例会〔令和3年7月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第9号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第10号	大磯町立小学校の特別支援学級で使用する教科用図書の採択について
協議事項	協議事項第1号	明治150年記念冊子制作業務について
報告事項	報告事項第1号	令和3年第2回（6月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町教育施設等長寿命化計画について
	報告事項第3号	令和3年度第1回いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第4号	企画展の開催結果について

第5回定例会〔令和3年8月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第11号	大磯町立小学校の特別支援学級で使用する教科用図書の採択について
	議案第12号	令和3年9月補正予算における教育委員会関連予算要求について
報告事項	報告事項第1号	令和2年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	教育委員会事務職員の人事異動について
	報告事項第3号	中学校部活動夏の大会結果について
	報告事項第4号	教育課題研修会の開催結果について
	報告事項第5号	大磯町文化財専門委員の委嘱について
	報告事項第6号	郷土資料館来館者100万人達成について
	報告事項第7号	令和3年度第1回大磯町子ども・子育て会議について

第6回定例会〔令和3年9月22日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第13号	大磯町指定有形文化財の指定事項の変更に関する諮問について（旧ホテル滄浪閣 ホール棟）
協議事項	協議事項第1号	相模原市立大野南中学校分校夜間学級における生徒の就学及び費用負担に関する協定書について
報告事項	報告事項第1号	緊急事態宣言延長に伴う対応について
	報告事項第2号	大磯町郷土資料館協議会委員の委嘱について
	報告事項第3号	大磯町郷土資料館本館の燻蒸について
	報告事項第4号	大磯町立図書館国府分館の臨時休館について

第7回定例会〔令和3年10月21日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第14号	相模原市立大野南中学校分校夜間学級における生徒の就学及び費用負担に関する協定の締結について
	議案第15号	大磯町学校運営協議会規則の制定について
	議案第16号	大磯町指定有形文化財の指定について
協議事項	協議事項第1号	令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価（案）について
報告事項	報告事項第1号	令和3年度第3回（9月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	町立小学校給食の給食費の改定について
	報告事項第3号	国府小学校給食調理業務等委託について
	報告事項第4号	「大磯町立国府小学校の給食調理の民間委託に関する要望書」について
	報告事項第5号	「大磯町立小中学校4校におけるICT支援員等配置の要望書」について
	報告事項第6号	第20回大磯図書館まつりの開催について



第8回定例会〔令和3年11月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第17号	令和3年12月補正予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第18号	令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第19号	学校教育法施行細則の一部を改正する細則について
	議案第20号	大磯町教育委員会規則で定める申請書等の押印及び署名の特例に関する規則
協議事項	協議事項第1号	令和4年度教育委員会関係当初予算要求に係る協議について
報告事項	報告事項第1号	令和3年度大磯町成人式の開催について
	報告事項第2号	町立幼稚園への令和4年度入園応募状況について

第9回定例会〔令和3年12月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第21号	大磯町指定有形文化財の指定事項変更について
報告事項	報告事項第1号	第20回大磯図書館まつりの実施結果について
	報告事項第2号	企画展「堀文子と大磯」の開催について

第10回定例会〔令和4年1月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第22号	令和4年度当初予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第23号	令和4年3月補正予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第24号	大磯町学校運営協議会規則
	議案第25号	大磯町特別職職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
協議事項	協議事項第1号	令和4年度教育委員会基本方針（案）について
報告事項	報告事項第1号	令和3年第4回（12月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町立国府小学校給食調理業務等委託事業者選定委員会の結果について
	報告事項第3号	学校の休業日の変更について
	報告事項第4号	長期休業中の学校閉庁日の設定について
	報告事項第5号	第2回いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第6号	令和3年度大磯町成人式の実施結果について
	報告事項第7号	大磯町電子図書館の開設について
	報告事項第8号	教養講座『鉄道開業150周年』の開催について

第11回定例会〔令和4年2月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第26号	令和3年度大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
	議案第27号	大磯町立学校の教育職員の業務量の管理に関する規則
	議案第28号	県費負担教職員の任免に係る内申について
報告事項	報告事項第1号	令和3年度文化財消防訓練の実施結果について
	報告事項第2号	児童文学講演会「“じいちゃんじてんしゃ”がしゅっぱつしんこうするまで」の開催について

第12回定例会〔令和4年3月24日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第29号	令和4年度大磯町教育委員会基本方針について
	議案第30号	教育委員会事務職員及び教育施設等の職員の人事異動について
	議案第31号	大磯町教育委員会教育長事務委任規則の一部を改正する規則
	議案第32号	大磯町学校運営協議会委員の委嘱及び任命について
報告事項	報告事項第1号	教育長職務代理者の指名について
	報告事項第2号	令和4年第1回（3月）大磯町議会定例会について
	報告事項第3号	令和4年度以降の大磯町成人式の式典名称について
	報告事項第4号	高来神社蔵木造神像の神奈川県指定重要文化財の指定について
	報告事項第5号	蔵書点検に伴う休館について
	報告事項第6号	大磯幼稚園の認定こども園移行に関するアンケートの実施結果について
	報告事項第7号	教育委員会関連事業の実施及び結果報告について

## (2)事務連絡調整会議

月 日	項 目	内 容
4月22日 第1回	1 令和3年6月議会における教育委員会関連予算要求について 2 生涯学習系の図書館への移動について 3 国府祭について 4 令和3年度大磯町総合教育会議の進め方について 5 教育長報告	説明 説明 情報提供 説明・開催日程調整 報告
5月20日 第2回	1 令和2年度大磯町小・中学校教材費等保護者負担金の状況について 2 中学校昼食運営委託について 3 大磯小学校いじめ重大事態追調査報告について 4 教科書採択について 5 大磯町指定有形文化財の指定について（旧池田成彬邸） 6 無形文化財の実施状況について 7 大磯町郷土資料館本館の臨時休館について 8 大磯町郷土資料館本館入館100万人記念について 9 教育委員会訪問事業について 10 教育長報告	情報提供 説明 報告 説明 報告 報告 情報提供 情報提供 協議・調整 報告
6月17日 第3回	1 令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価について 2 中学校昼食運営委託事業者の決定について 3 大磯町教育施設等長寿命化計画の進捗状況について 4 教育委員会訪問事業について 5 令和4年度教科用図書の採択について 6 コミュニティ・スクール推進協議会の報告について 7 「教育機会確保」等に係る教育委員会の取組について 8 明治150年記念冊子の作成について 9 大磯町郷土資料館本館の燻蒸について 10 総合教育会議について 11 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について 12 教育長報告	協議・調整 報告 報告 協議・調整 説明 報告 説明 説明 説明 協議・調整 報告 報告
7月15日 第4回	1 令和3年9月補正予算における教育委員会関連予算要求について 2 令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価について 3 令和3年度教育課題研修会について 4 無形民俗文化財の実施状況について 5 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について 6 教育長報告	説明 協議・調整 説明 報告 報告 報告

月 日	項 目	内 容
8月19日 第5回	1 大磯町の教育ビジョンについて 2 令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価について 3 令和3年度大磯町幼・保・小・中一斉避難訓練及び引渡し訓練について 4 大磯町立学校の教育職員の業務量の管理に関する規則の制定について 5 おおいそ文化祭の中止について 6 大磯町指定有形文化財の指定事項の変更について（旧ホテル滄浪閣ホール棟） 7 大磯学童保育所における新型コロナウイルス感染症事案について 8 大磯町総合教育会議（7月5日開催）の議事録について 9 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の状況について 10 教育長報告	説明 協議・調整 説明 説明 説明 説明 報告 確認 報告 報告
9月22日 第6回	1 令和3年度大磯町教育委員会の点検・評価について 2 国府小学校給食調理業務等委託について 3 中学校昼食支援の実施状況について 4 大磯町学校運営協議会規則について 5 大磯町指定有形文化財の指定について（旧池田成彬邸〔西園寺公望別邸跡〕） 6 旧大隈重信別邸・陸奥宗光別邸跡の邸宅活用について 7 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の状況及び自宅療養者への対応について 8 教育長報告	協議・調整 説明 報告 説明 説明 報告 報告 報告
10月21日 第7回	1 大磯町公共施設等第1期個別施設計画について 2 令和3年12月補正予算における教育委員会関連予算要求について 3 令和4年度当初予算 教育委員会予算編成スケジュールについて 4 大磯町特別職職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の改正について 5 中学校昼食支援の実施状況について 6 令和3年度大磯町成人式の開催について 7 令和3年度人権講演会の開催について 8 「大磯町立大磯幼稚園のこども園化に関する要望書」について 9 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の状況について 10 教育長報告	説明 説明 協議・調整 説明 報告 説明 説明 報告 報告 報告
11月18日 第8回	1 大磯町指定有形文化財の指定事項変更の答申について 2 大磯町総合教育会議について 3 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の状況について 4 教育長報告	説明 説明・開催日程調整 報告 報告

月 日	項 目	内 容
12月16日 第9回	1 令和4年度当初予算査定状況について 2 令和4年度大磯町教育委員会基本方針（素案）について 3 大磯町特別職職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の改正について 4 令和4年度の始業式及び入学式、夏季休業の日程について 5 大磯町立国府小学校給食調理等業務委託公募型プロポーザルについて 6 令和3年度文化財消防訓練の実施について 7 町立大磯幼稚園民営化こども園移行についての陳情について 8 令和3年度子育て世帯への臨時特別給付について 9 大磯町総合教育会議について 10 教育長報告	説明 説明 説明 情報提供 説明 説明 報告 報告 説明・開催日程調整 報告
1月20日 第10回	1 大磯町立学校の教育職員の業務量の管理に関する規則の制定について 2 令和3年度管理職・総括教諭配置表について 3 いそっこフェスティバルについて 4 教育長報告	説明 説明 報告 報告
2月17日 第11回	1 令和4年度教育委員会定例会及び教育委員会訪問日程について 2 大磯町公共施設等総合管理計画第1期個別施設計画 改訂(案)について 3 令和4年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（栃木大会）の大会概要について 4 蔵書点検に伴う休館について 5 大磯町郷土資料館の臨時開館について 6 旧吉田茂邸のイベントについて 7 教育長報告	協議・調整 説明 情報提供 説明 説明 説明 報告
3月24日 第12回	1 辞令交付式について 2 令和4年度神奈川県市町村教育委員会連合会総会について 3 令和4年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（栃木大会）について 4 教育長報告	協議・調整 情報提供 情報提供 報告

### (3)総合教育会議

区 分	協議事項	月 日
第1回	1 「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」の協議内容のまとめについて 2 コロナ禍における学校教育の在り方について 3 児童生徒の事故等の状況について	7月5日（月）
第2回	1 「コロナ禍における学校教育の在り方について」の協議内容のまとめの報告について 2 教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～ 3 児童生徒の事故等の状況について	12月21日（火）

#### (4)意見交換会・懇談会

- ①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との意見交換会

令和3年度は未実施

- ②社会教育委員との意見交換会

令和3年度は未実施

- ③中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集い・小学校地区懇談会への参加

令和3年度は未実施

## (5) 訪問

### ① 学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	大磯町立大磯幼稚園	
日 時	令和3年5月20日(木) 13:15 ~ 14:30	
日 程	開会あいさつ	13:15~13:20
	懇談	13:20~14:30
	閉会	14:30
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	大磯幼稚園長、恵伸会保育部長、サンキッズ国府園長	
主な懇談会内容	(1)大磯幼稚園の保育実践について (2)サンキッズ国府の保育実践について (3)懇談	

訪問学校・園名	大磯町立国府小・中学校生沢分校	
日 時	令和3年6月17日(木) 13:20 ~ 15:30	
日 程	授業参観	13:20~14:05
	職員との懇談	14:05~15:30
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、教諭	
主な懇談会内容	<p>【学校より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナの関係で、公共教育機関での移動ができない。校内での学校行事が中心となった。</li> <li>○2学期の学校がどうなっていくか懸念している。7割程度の子どもが発達障害を抱えている。</li> <li>○六角返しというパズルを作成した。少人数のため、実習の授業を丁寧にみてあげることができる。</li> <li>○数学に苦手意識を持っている生徒が多い。</li> <li>○失敗をしたくない生徒が多い。できた時の声掛けを多くするように心がけている。</li> <li>○コロナ対応の難しさがある。生徒は寮での生活なので、コロナが持ち込まれるとすれば大人を介してということになる。関係職員に発熱等があれば、関係する寮の生徒は登校させないようにしている。</li> </ul> <p>【教育委員より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大磯中・国府中では、家庭科の授業で制作したおもちゃを保育実習にもっていったが、生沢分校では難しいか？ →様々な事情を抱えてやってくる子どもたちが多いので、実施は難しい。保育園等に行きたい生徒は多い。</li> <li>○子どもたちは寮から通室しているのか？ →はい。教職員が学校で登校してくる生徒を迎えるようにしている。</li> <li>○子どもたちの学習の到達度は？ →小学校時代にどれくらい学習が定着しているかで、中学校の学びが変わってくる。一般の学校に比べて、フリガナを入れる、イラストを多くするなど工夫は必要である。</li> <li>○評価は絶対評価か？地域の学校との整合性は？ →地域に戻った時に整合性が取れるように工夫をして評価をしている。特別支援学校を含め、進路を検討する。受け入れ先がなかなか決まらないため、進路指導が困難にケースも多い。</li> <li>○子どもたちの雰囲気が大きく変わった。以前は目を合わせないように注意しなければならないような生徒もいた。落ち着いた雰囲気に感動した。</li> <li>○卒業生の現状は？ →特別支援学校に進学した生徒、高等部で就労を目指している生徒、県立高校、私立高校等進路先はさまざまである。すでに高等学校でトラブルを起こしてしまった生徒もいるという報告を受けた生徒もいるが、今のところ退学をしたという報告は受けていない。</li> <li>○非行、発達、家庭環境等、背景に抱えるものが多岐にわたる生徒と一緒に指導する難しさがあるのでは？ →生沢分校は特に子供の状況の変化にアンテナを張り、学年の職員を含め、緊密な情報共有を行っている。</li> </ul>	

訪問学校・園名	大磯町立国府保育園	
日 時	令和3年7月15日(木) 12:30 ~ 14:30	
日 程	給食試食	12:30~13:10
	保育参観	13:15~13:30
	職員との懇談	13:30~14:30
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	保育園長、園長補佐、保育士	
主な懇談会内容	<p>【園より】</p> <p>○乳児と幼児の日課の説明。乳児はおやつ時間を2回取っている。近くの公園まで散歩する活動も取り入れている。幼児はなかよしタイムを取り入れ、異年齢児とのかかわりを持てるようにしている。</p> <p>○コロナ禍のため、他園との交流会や小学校見学、高齢者の方々とのふれあい交流会ができないことが課題。図書館の方による読み聞かせなど、感染対策考慮した上で、園の中でできる行事を取り入れるようにしている。</p> <p>【教育委員より】</p> <p>○幼稚園・保育園・認定こども園の違い、幼児保育の仕方の違いや学習に向けて取り組んでいることはあるのか。</p> <p>○保護者が家でできないことを保育園に要求してくるのではないのか。家庭でのしつけ等。</p> <p>○午睡している子どもの中で暗闇が怖いと言っているお子さんがいた。 →集団の中に入りづらい。環境に敏感。年長になって登園の習慣がつくようになってきた。集団生活に慣れ始めている。大勢が苦手なのではないのか。</p> <p>&lt;保護者からの相談内容&gt;</p> <p>【各担任の先生より】</p> <p>○1歳児…育児相談が多い。(泣いてしまう・寝れない・偏食・トイレトレーニング等) 周りの子を見てできるようになることもある。園でできることは一緒にやっていく。</p> <p>○0歳児…入園したばかりの園児は給食が進まない(食べることに慣れていない)ので、少しずつ慣れさせていく。</p> <p>○年長…友達関係や子どもの成長に対する相談がある。</p> <p>【教育委員より】</p> <p>○習い事に行く子どもはいるか。 →いる。(英語・スイミング・ピアノ等) AETの先生と関わる時間もある。興味を持たせる工夫を組んでくれているので、幼稚園と同じプログラムになっている。レッスンの中で、遊びの要素を入れているから、楽しんでやっている。</p> <p>○園庭の上の方に行く子どもはいるか。 →いる。自然豊かで虫を捕まえて乳児さんも行く。</p> <p>○園外保育ははやっているか →やっている。1週間に、1~2回は取り入れている。目的があると楽しみにしている子どもたちがいる。園具が少なく、経験が積み重ねられないので、公園に行くと、様々な遊具で経験ができる。</p> <p>○今通っている園児は紙おむつか布おむつを使っているのか。 →紙おむつを使っている。布でも対応はできる。 トイレトレーニングが一番大変な時期は、声掛けをしてトイレを促すようにしている。</p> <p>○幼稚園と保育園の5歳児の違いは。 →大きな違いは感じないが、保育園の子どもはたくましいイメージ。(0歳児から来ている園児もいるため。)</p> <p>○保育園は異年齢の幅が広く、自然と関われるのはとてもよいのでは。6年間のつながりは子どもにとって大きなつながりになるのではないのか。 →幼稚園は異年齢とのつながりが少ない、保育園は年下の子どもの面倒を見てくれる。 6年間の保育期間は貴重な体験がたくさんできる。乳児も幼児の影響を受けている。ふれあいが身近にできるので、自然と他者を思いやる心が身に付いていく。</p>	



訪問学校・園名	教育研究所	
日 時	令和3年8月19日(木) 13:15 ~ 14:30	
日 程	あいさつ	13:15~13:20
	邸内見学	13:20~13:30
	質疑等	13:30~14:30
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者		
主な懇談会内容	<p><b>【研究所所長より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本理念「大磯町の教職員一人ひとりがさまざまな教育課題を持って、自ら追究していくための支援機関とする。</li> <li>○昨年度から大幅なスクラップ&amp;ビルドを行い、基本理念に沿った活動ができるようになった。昨年度は、大磯小学校校長が中心となり、「大磯の教育の未来」という研究チームが立ち上がった。</li> <li>○適応指導教室から教育支援室となった。</li> <li>○常時勤務しているのは鈴木所長と諸星専任教諭。非常勤で指導協力員が2名、大曾根SC、安永SSW、高橋SSW(県派遣)、田代SLが勤務している。</li> <li>○教育相談事業が充実した。来所相談、電話相談、訪問相談を行っている。</li> <li>○不登校サロン「ふらっと」で不登校児童・生徒を抱える保護者同士の交流。毎回4~5人参加。</li> </ul> <p><b>【教育支援室専任教諭より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適応指導教室時代は、教育委員会副課長が所長を兼務だったので、一人で教室を回さなければならず、難しさがあった。</li> <li>○数年前までは中学生がほとんどであったが、最近は小学生の割合が増えてきている。</li> <li>○通室する児童・生徒の数も増加傾向にある。</li> <li>○所長が電話対応や保護者の対応をしてくれることで、専任教諭の仕事に専念できるようになった。</li> <li>○通室する児童・生徒が10名を越えると教室内はかなり密の状態。</li> <li>○学校復帰できる児童・生徒が増えてきた。</li> <li>○現在は「大磯町在住の児童・生徒」を受け入れている。私立に通う児童・生徒が通室する場合は、教育委員会との連携が重要になってくる。</li> <li>○教育支援室は学校に通えない子どもが力を蓄える場。</li> <li>○コロナ禍で調理実習や遠足が実施できていない。</li> <li>○学習がネックになっている子が多い。興味のあることから取り組ませている。</li> <li>○小学校低学年の通室希望が増えている。</li> <li>○学校の中に「つばさ」と同等の機能を持つ教室が増えるとよい。</li> <li>○学校の特別支援教育の充実。</li> </ul> <p><b>【スクールカウンセラー(SC)より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども・保護者・教職員を対象に、カウンセリング、コンサルテーションを行っている。</li> <li>○不登校、発達障害等の不適応に関する相談が多い。</li> <li>○相談室を休み時間に開放する等の取り組みをすることで、SCが子どものサインを事前に察知することができるようになるのではと考えている。</li> <li>○リストカット等の対応について、研修を各校を巡回して実施する予定。</li> </ul> <p><b>【教育委員より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校に戻ることができるようになった子が増えたことは素晴らしい。</li> <li>○学校の中につばさと同等の機能を持つ教室が増えれば、さらに学校に戻れる子が増えるのでは？</li> <li>○子どもの気持ちを尊重し、子どもの居場所が用意できるとよい。</li> <li>○国府地区にもつばさに準じた施設があると良い。</li> <li>○大学で教育相談に関わってきた経験から、不登校支援は非常に重要なことだと考えている。将来的には大磯町教育研究所が町の教育相談センターとしての機能を持てるようになっていければ。</li> <li>○小学校の子に発達障害が増えているか？ →(SC)発達障害が増えているわけではないが、相談は増えている。</li> <li>○発達障害の傾向を保護者がどのようにとらえているか。適切なケアがなされないと、中学校・高校に入った後に不登校になる。</li> <li>○学力をつけるためには学ばせなければならない時期がある。教育支援室が易きに流れる場所にしてほしくない。 →(所長)させられていると感じさせないようなアプローチを。</li> <li>○教育相談の基本は「聞いてあげること」。</li> <li>○話を聞いてもらえることで、心が落ちつくことがある。その関係性がどこかでつながっていく。</li> <li>○星槎学園との連携を検討している。</li> <li>○来るもの拒まずで受け入れていただきたい。そこから徐々に学校に戻って行ければ。</li> <li>○好きなことをきっかけに、人との関わりを学んでもらえれば。</li> </ul>	

訪問学校・園名	大磯町立国府中学校	
日 時	令和3年9月22日(水) 12:40 ~ 15:20	
日 程	開会	12:40~12:50
	授業参観	12:50~13:30
	職員との懇談	13:40~15:00
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、教諭、養護教諭、総括事務主査	
主な懇談会内容	<p>&lt;学校研究について・ICT教育について&gt;  タブレットを使った授業研究。試行錯誤を繰り返して、授業に取り組んでいる。個別最適化された使い方、学びの可能性をどれだけ引き出せるか。授業、個別支援、不登校対応におけるタブレット利用について研究し、成果と課題をまとめていきたい。</p> <p>&lt;各学年及びふれあい学級の生徒の様子&gt;  ○1年生…学校にも慣れてきた。不登校の生徒も担任と関わりを持っている。授業に対するメリハリがついている。基本的な学習・生活習慣が身に付いていて、全体的に落ち着いている。授業の中で分からないところを教師に聞くなど、「分かりたい!」「理解したい!」「解決したい!」という思いを持っている。</p> <p>○2年生…「人のせいにはしない、主体的な人になろう」という学年テーマを設け、失敗を許す仲間づくりに努めている。人間関係作りに課題がある生徒が多い。問題があれば学年集会等を開き、自分たちで解決できるような機会を設けてきた。少しずつできることを増やしている。</p> <p>○3年生…落ち着いた学校生活を送っている。最上級生として、体育祭では縦割り活動を重視し、リーダーシップを発揮できるようにした。タブレットが導入された影響で、外で遊ぶ生徒が少なくなってしまうことを懸念している。</p> <p>○支援級…新設された難聴級については、定期的に保護者と教育相談をし、課題を解決できるようにしている。他にも支援が必要な場合は、地域支援を活用している。</p> <p>○生徒指導…学校全体で落ち着いた生活を送れているので、大きな問題はない。</p> <p>○保健室…大きなけがはなく、片頭痛や生理痛の利用が多く、心の休息が必要な生徒の利用もある。</p> <p>&lt;「コロナ禍での学校行事の在り方」について&gt;  <b>【教育委員・教育長より】</b>  ○タブレットを利用した授業をとっても効果的にやられている。教師の伝える力が高い。自分の言葉で伝えているから説得力が高い。  ○各教科で工夫を凝らした授業を展開している。学校生活が大きく変わっている中で、先生方が見事に対応できている。  ○タブレットを活用した授業の良さもあるが、対面授業ができる良さに気づけた。  ○生徒たちの学びのレベルが高い。生徒の力を引き出すのは、教師の役目。教員が的確に対応できている。文房具の一つとして、タブレットを活用させている。</p> <p><b>【教諭・総括事務主査より】</b>  ○タブレット利用(教諭)…GIGAスクール構想導入時から指導主事と連携して様々な試みを行い、タブレットを使った授業実践を先生方をお願いしている。  ○伝える力(教諭)…コロナ禍によって、普段の授業をよりよくしていく意識が芽生えた。「授業は楽しくなければいけない」  ○短縮授業(教諭)…昨年度の経験を活かして、より計画的に、内容を吟味して取り組むことができている。</p> <p>○GIGAスクール構想による変化(総括事務主査)…教員の授業力格差、指導力格差の懸念があったが、どの教員も前向きに活用している。タブレットの故障も3、4件ほど。生徒自身も責任をもって使用している姿が見られる。</p> <p>&lt;GIGAスクール構想について&gt;  ○今年度は校務分掌に組織した。ICTに長けている教員が多い。  ○ICT支援員の導入については、教員ができること(やるべきこと)と、支援員にお願いしたいことをきちんと把握した上で導入した方がよい。  ○タブレットは積極的に使わせてほしい。その際に、タブレットの使い方の指導は必要だが、壊れた時に「故意か、故意じゃないか」の判断はしなくてよい。壊れたら治す。</p> <p>&lt;コロナ禍の学校行事&gt;  ○例年のような行事ではなく、大磯ならではの行事を企画してほしい。工夫を凝らし、生徒たちの思い出に残るような行事を。  ○感染対策をした上での行事の計画は非常に難しいが、制約がある中でできることを計画している。行事を通して成功体験を得られるようにしている。  ○今後予定している文化祭については、保護者の参観はなしにして、ある程度の制約を設けて実施予定。  ○修学旅行は何度も何度も計画を見直している。生徒が諦めている様子で可哀そうに思う。</p> <p>&lt;小中学校の違い&gt;  中学校の教員は自分の担当教科の授業をしているので、授業も楽しそうに行っている。専門的の力が高い。小学校の教員は総合的な力を求められている。中学校の運営組織を、小学校から取り組めると解決できる課題も増えるのではないかと。(小学校における教科担任制・クラスを持たない学年主任によるマネジメント)</p>	

訪問学校・園名	大磯町立大磯小学校	
日 時	令和3年10月21日(木) 12:20 ~ 16:00	
日 程	給食参観・給食試食	12:20~13:00
	昼休み参観	13:00~13:20
	授業参観	13:25~14:10
	懇談会	14:25~15:50
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、教諭、養護教諭、事務主事	
主な懇談会内容	<p>(1)校長及び教育活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童数872名 教職員約80名 中地区で3番目に児童数が多い学校。</li> <li>○PTAが任意加入となったことも特徴の一つ。</li> <li>○マンツーマンでの対応を求められることが多いが、人員が足りない。</li> <li>○臨時的任用職員が9名と約三分の一となっている。</li> <li>○保護者の関心が高く多様な声が届く。対応に苦慮している面がある。</li> <li>○日課表を見直し、清掃を週3回とすることで、放課後の時間にゆとりが生まれた。</li> <li>○職員の勤務時間を考慮し、登校時間を8:15とした。</li> <li>○SC・SSWの勤務日数増加、教育支援員・指導協力員の増員により、対応が厚みを増している。</li> <li>○2階には教育相談室を開設することができた。</li> <li>○5、6年に教科担任制を導入し、1~4年で交換授業を実施している。</li> </ul> <p>(2)懇談会 教育委員と教職員代表による全体会 【教育委員・教育長より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書室がとても盛況で驚いた。静かに本を読んでいる子、司書に本の内容について尋ねている子、色々な姿を見ることができた。</li> <li>○1年生の国語「漢字の成り立ち」の授業、それぞれの担任のカラーが出ていてよかった。</li> <li>○先生たちの言葉遣いがとても丁寧だと感じた。</li> <li>○学習室の算数の授業、タブレットを使用して視覚的に分かりやすい工夫していた。</li> <li>○昼休みの子どもたちの様子、生き生きとしていてとてもよかった。</li> <li>○先生と子どもたちが大磯小学校をどうしていきたいか常に考えていってほしい。</li> </ul>	

訪問学校・園名	大磯町立大磯中学校	
日 時	令和3年11月18日(木) 12:15 ~ 15:30	
日 程	昼食	12:15~13:00
	授業参観	13:00~13:55
	懇談会	14:15~15:30
訪 問 者	教育長、教育委員3名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、教諭	
主な懇談会内容	<p>&lt;タブレット端末について&gt;</p> <p>○一人一台タブレット端末の活用法の工夫。授業の中でどう活用すればよいのか教師としても悩ましいときがあるが、タブレットがあることで学習が深まることがある。</p> <p>○端末を利用するルールはきちんと設けている。(学年によって保管の仕方、保管庫の取り扱いが変わる)</p> <p>○端末の容量が足りない。指導者用のデジタル教科書を端末に入れているので、容量を大きくしてもらいたい。今後、授業者用のデジタル教科書を導入していくことになると、生徒用の容量も大きくする必要がある。</p> <p>○子どもたちは端末の扱いに慣れている。プレゼンや発表がとても上手。</p> <p>○端末の持ち帰りは各学校によってきまりを設けているのか。今後、生涯学習課で講座等を企画する際に持ち帰りのきまり等を確認した上で検討したいと思っている。</p> <p>→授業の課題を家でやりたいと申し出てきた場合は、持ち帰りをさせたこともあるが、現時点ではきまりは設けていない。今後は持ち帰りの方法も検討していきたい。</p> <p>○持ち帰って破損があった場合は、教育委員会で負担する予算を確保しているので、積極的に活用してもらいたい。いつも自由に使えるようにしてほしい。学校でも最大限工夫してもらいたい。</p> <p>○持ち帰るには、学校で明確なルールを整理して、保護者への説明をしなければいけない。また、不登校傾向の子どもたちが教育支援室で活用することも検討している。どちらにせよ、セキュリティーの設定強化、学校教育の中でルールを徹底させる指導は必要。</p> <p>○授業配信がスムーズにできるように、研究所の個人研究を活用して必要な物品を整理している段階。</p> <p>&lt;大磯らしさ、大磯中らしさ&gt;</p> <p>○自由。自由なので子どもたちの主体性が高まっている。子どもたちの理想を実現していくことは簡単なことではないが、教師もできる限りの支援をしながら主体性を伸ばしていきたい。</p> <p>○一小、一中で、人間関係の深まりと固定化。子どもたち同士の付き合いが長いので、男女の仲がとても良い。新たな人間関係づくりがなかなかできないことは課題。</p> <p>○今は変わり目。大磯らしさを残しながら、今のやり方を見直していきたい。</p> <p>○自由なのは、子どもたちを信じているからこそ。</p> <p>○ルールは自分たちで作るもの。その学校をより良くしていくために、子どもたちと先生たちが一緒になってルールを考える。そのルールを実現するために、保護者や地域に応援してもらおう。</p> <p>○生徒はミスをする。ミスを見逃さずに、改善できるように教師が声をかける。生徒自身が考えて自分で判断できるように、教師として指導することが必要。</p>	

訪問学校・園名	大磯町立国府小学校	
日 時	令和4年1月20日(木) 12:15 ~ 15:00	
日 程	給食参観・給食試食	12:20~13:00
	懇談会①	13:00~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談会②	14:30~15:00
訪 問 者	教育長、教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、教諭、栄養教諭、養護教諭、事務主事	
主な懇談会内容	<p>&lt;コロナ関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分散登校ABグループ 地区ごとに分担。例年ならば4・5月で登校班が編成できたが、現状組めていない。</li> <li>○家庭での過ごし方 担任による電話連絡</li> <li>○給食では、感染防止対策の一つとして、職員が配膳している状況。他にも保健指導部による動画作成や感染防止対策の共通理解等を実施。</li> <li>○保護者にも学校の様子を紹介している。</li> <li>○コロナから学んだのは、不登校傾向の子が通いやすくなったこと(分散・小集団)。少人数学級は今後よい方向になると思う。 →リセットできた面があったか？全員一斉にスタートを切れた感がある。</li> <li>○オープンスペースは通常壁がないデメリットが挙げられるが、今回はスペースが作れることやエアコンがありがたかった。</li> <li>○水栓はオートが感染リスク軽減の観点で望ましい。(全120箇所)</li> <li>○専科だと、貸出物品は消毒の苦勞あり。</li> <li>○個別教室 拡張</li> <li>○健康観察票は4月にポスティング。再開後は昇降口でのチェック体制あり。</li> <li>○手洗い指導—ハンカチ忘れにも対応(学校回収しての消毒まで)</li> <li>○保健室は発熱時の対応を考慮して、2箇所に対応。</li> <li>○6/15~給食開始 初回は簡易給食(パンの個包装等)</li> <li>○配膳等について保健指導部においてシミュレーション実施。 ○1年生は初めての給食 新採用教員も含めて、増員し、フォローアップ</li> </ul> <p>&lt;学校運営上の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベテランの退職が重なるため、来年以降の将来的な人事上の展望を知りたい。</li> </ul> <p>【教育委員より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ関連で大人も含め、教育相談はあったか？ →数名いる。給食を食わずに帰らせたい。大人が送迎したい。濃厚接触あれば欠席させたい等。</li> <li>○分散登校時の15名は望ましい人数。学校の生活指導が細やかにできる。新しい教育に向かう議論となるだろう。</li> <li>○創意工夫が改善につながる面あり。給食指導も行き届き、子どもの意識にも変化が出ている。</li> <li>○急な制度変更や学校行事の見通しのしづらさ等、なんとか乗り切ってほしい。</li> </ul>	

③行事等

行事名	月日(曜)	対象園・学校等
運動会・体育祭	6月5日(土)	大磯中学校運動会
	6月11日(金)	国府小学校運動会
	6月12日(土)	国府中学校体育祭
	9月17日(金)	国府小・中学校生沢分校運動会
	9月18日(土)	国府保育園運動会
	10月1日(金)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園運動会
	10月5日(火)	大磯小学校運動会
文化祭・保育発表会等	10月15日(金)	国府中学校文化祭
	10月16日(土)	大磯中学校文化祭
	11月11日(木)・12(金)	大磯小学校学年音楽会
	11月20日(土)	国府保育園保育発表会
	11月20日(土)	国府小・中学校生沢分校ディアボロ発表会
	12月10日(金)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園保育発表会
	2月17日(木) ～3月3日(木) 中止	いそっこフェスティバル合同作品展示 おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
卒業証書授与式 ・修了証書授与式	3月9日(水)	大磯中学校・国府中学校
	3月15日(火)	国府小・中学校生沢分校
	3月18日(金)	大磯小学校・国府小学校
	3月19日(土)	国府保育園
	3月24日(水)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園
生涯学習	4月2日(金) ～8月22日(日)	旧吉田茂邸ミニパネル展「吉田茂の愛犬たち」
	4月14日(水) ～6月30日(水)	大磯自然発見コーナー 「身近に見られる鳥の巣」
	4月17日(土) ～6月20日(日)	春季企画展「旧高麗寺ゆかりの神像、仏像修理一出来！高来神社神像保存処理」
	6月2日(水) ～8月22日(日)	ミニ企画展「大磯と東京オリンピック1964」
	7月、11月	事業協力:鳴立庵展示ケースの展示
	7月13日(火) ～8月22日(日)	大磯自然発見コーナー 「セミのぬけがらはかせになろう！」
	10月2日(土) ～3月31日(木)	旧吉田茂邸ミニパネル展「別荘地大磯と吉田茂」
	11月	事業協力:港湾管理事務所展示スペースの展示
	11月13日(土) ～14日(日)	第20回大磯図書館まつり
	12月11日(土) ～2月27日(日)	大磯自然発見コーナー 「さがしてみよう！木の実・草の実」
	1月22日(土) ～2月20日(日)	企画展「堀文子と大磯」
	中止	第68回おおいそ文化祭
	中止	おおいそ美術展
1月10日(月・祝)	成人式	
その他行事等	中止	子ども作品展
	中止	小・中学校音楽会
	中止	中学生英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

## (6)その他の活動

- ①神奈川県市町村教育委員会連合会役員会・総会・意見交換会

令和3年度は書面会議

- ②関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

令和3年度は中止

- ③神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

令和3年度は欠席（教育委員会定例会と同日のため）

3 項目別点検・評価（内部評価） 令和3年度対象

R4実施 評価様式

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。		
評価項目	評価	評価の主な根拠・課題に対する改善点等
①教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り、教育委員会定例会は毎月1回開催された。 議案等資料を事前配付することにより、会議が効率的・効果的に運営され、各委員は質疑・意見等を活発に行える環境になっている。 定例会は町広報等により周知し、傍聴を可能とし、会議終了後は、速やかに議事録を町ホームページ等を通じて公開し、積極的な情報提供を図っている。 教育行政を取り巻く環境は、この数年、感染症予防対策を図りながら、ICT教育の活発化などにより、さらに多様化・複雑化しており、課題解決に向けて、地域と連携した取り組みが重要となってきている。
②教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	A	従来より、教科書採択、いじめ問題、コミュニティ・スクールの進め方、中学校給食に伴う課題、各種計画の策定、学習環境整備の充実に向けた施策等、多くの課題の方向性の決定において、委員の多様な意見が取り入れられ、合議により適正な意思決定がなされて来た。 今後も様々な教育課題に対応するため、定例会後に行われる事務連絡調整会議の活用、研修会や勉強会等の機会を通じ、審議充実にも努める必要がある。
③教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	A	令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を図りながら、授業や行事への対応等を講じる必要があった。 また、令和4年度から始まるコミュニティ・スクールの導入に向けた課題解決、教育施設等長寿命化計画を踏まえた教育施設の在り方の検討等、大磯幼稚園の私立認定こども園化に伴う関係者との合意形成、国府小学校給食調理業務等の委託など、様々な課題に取り組んだ年度であった。 さらに、こうした各種施策の実現に際し、教育予算の編成が確実に行われた。
④教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	A	定例会において、付議・協議・報告される案件に対し、関心の深い事項について、地域住民の傍聴がみられる。 また、教育施策の意思決定機関が教育委員会議であるという認識が地域住民にも浸透してきており、審議経過を明らかにすること、会議内容の透明性を図るよう努める必要がある。 令和3年度も新型コロナウイルス感染症予防対策のため、地域との意見交換の場を設けることが難しい年ではあったが、今後も、地域住民にとって身近な存在となるよう、今日的な課題に真摯に取り組む必要がある。
⑤総合教育会議において調整が行われた事項について、尊重して教育行政を行っているか	A	これまで取り組んできた人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について、協議を深めるとともに、新たに、コロナ禍における学校教育の在り方、教員の働き方改革、教育のデジタル化への対応などをテーマに、首長と教育委員会が活発に意見交換を行った。
総合評価	A	感染症予防対策に努めつつ、「新しい生活様式」に基づく対応を図る中で、ICT教育の推進など様々な課題が見えて来た年度であった。 今後も引き続き、各教育委員の経験や知見を活かした活発な意見交換を行い、時代の変化や予期しない出来事に柔軟かつ適切に対応することが求められている。



## (2) 事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。		
評価項目	評価	評価の主な根拠・課題に対する改善点等
①必要に応じて、適宜、開催されたか	A	教育委員会定例会に付す議案や協議、報告事項について、円滑に会議を運営するために、情報共有・確認・調整の場として、毎定例会後に開催された。 今後も、事件や事故、いじめなど重要案件等が発生した場合は、臨時的な開催も含め、情報の共有がなされるよう求めたい。
②勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	教育予算に関すること、教育委員会基本方針の策定や点検・評価、その他重要事項においては、勉強会等を通じて、十分な情報・資料提供がなされた。 また、町の将来を見据えた教育を「教育ビジョン」として方向性を定めていくにあたり、方向性を共有することができた。
③次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか	A	総合教育会議や定例会での重要議案等の審議に臨むにあたり、詳細な資料と丁寧な説明を受けることで、十分な理解を得ることができた。 教育委員会として意思決定を図っていく上では、教育委員が活発に議論できる場が必要であり、今後も多くの機会を設けていきたい。
総合評価	A	多岐にわたる情報を正確に把握し定例会資料として情報提供を行うと共に、日々発生する課題等をメールや電話等を通じて、常に事務局から情報発信する姿勢が見られ、こうした取り組みが会議の円滑な運営につながった。今後も継続することを望みたい。

## (3)意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。		
評価項目	評価	評価の主な根拠・課題に対する改善点等
①懇談会等を通して保護者や地域住民と課題を共有することができたか	B	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、保護者や地域との意見交換の場を設けることは難しい年であった。 しかし、学校教育施設の老朽化に伴う改修箇所や空調設備の未整備箇所への早期整備、特別支援の必要な児童生徒への対応、不登校児童生徒に対するオンライン授業の実施、中学校給食施設の整備など、保護者や地域住民の要望は事務局を通じて把握することができており、課題を共有し、実現に向けた取り組みも教育委員会議等に反映できている。
②懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	日中の多くの時間を学校で過ごす児童生徒や教職員等が、安全に安心して学習に取り組むことができる環境を維持する上では、老朽化する学校教育施設を計画的に改修していく必要がある。 令和3年6月には「教育施設等長寿命化計画」が策定されたので、引き続き、行政、学校、保護者、地域が一丸となって、大磯町の教育ビジョン、教育施設の在り方を検討していくことを望みたい。
総合評価	B	「地域とともにある学校」を目指し、多くの方と課題を共有できる貴重な機会は今後も活発にあってほしい。 学校と保護者、地域の方々が知恵を出し合い、子どもの豊かな成長を支えるために「目標」や「ビジョン」を共有する関係が構築され、教育行政の意思決定に反映されることを期待したい。

## (4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。		
評価項目	評価	評価の主な根拠・課題に対する改善点等
①学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	B	<p>令和3年度は、新たに就任した教育長の下、訪問の機会を増やした。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、急遽、実施できない機関もあったが、現場の苦労や様々な工夫、課題を共有することはできた。</p> <p>学校では、タブレットを利用した授業の実践に際し、教師による様々な試みがなされ、学習に深まりが感じられた。家庭への持ち帰りや破損等の対応にも課題は残るが、不登校児童生徒へのオンライン授業も行われ、今後の活用にも期待したい。</p> <p>また、特別支援や個別対応が必要な児童生徒に対しては、保護者と定期的に教育相談を行い、教育支援室やスクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等の活用を図りながら、課題解決に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>さらに、感染症予防対策を図りながら、運動会や体育祭・文化祭・部活動などの校内行事及び修学旅行などの校外活動は、各校・園において、児童生徒・保護者の協力を得ながら、工夫して実施につなげた取り組みは評価したい。</p> <p>今後は、教職員の方々の苦労や思いに寄り添っていくためにも、もっと話が聞ける時間が持てるとさらに良いと思う。</p>
②学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	<p>現場において、感染症対策を図りながら、学びの保障に向けた取り組みを実施する中で新たに増えてきた課題等に対し、会計年度任用職員の加配等により教職員の負担軽減を図った。</p> <p>また、感染症予防対策に伴う物品・消耗品等の購入に加え、手洗い場の自動水栓交換工事や換気のための網戸設置工事など、新型コロナウイルス感染症対策臨時特例交付金を活用した大規模な修繕工事を実施し、教育施設環境の充実に努めた。</p>
総合評価	B	<p>現場が抱える課題は尽きない。</p> <p>教育は人をつくる。教職員の“生の声”は極めて意味があると常に心に留めていく必要があり、未来を生きる子どものために、できる限り現場の意見を行政に生かせるよう努めたい。</p>

## (5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。		
評価項目	評価	評価の主な根拠・課題に対する改善点等
①教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか	B	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学校・幼稚園・保育園行事には、教育委員も全く参加することができなかった。 また、教育委員の研修や意見交換などの会議は、中止もしくは書面会議となった。 学校・園等での行事は、感染症予防対策を図りながら、徐々に実施できている状況にあり、子ども達の生き生きとした姿を見る貴重な機会であるので、参加できる体制づくりを求めると共に、今後の大磯町の教育行政に役立てていきたい。
②各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか	B	行事等を通じて認識する機会はなかったものの、各学校・園の取り組みは、教育委員会定例会や事務連絡調整会議等により、事務局からの報告に基づき理解することはできた。
総合評価	B	子どもの成長、安心・安全を見守る目が温かく行き届いており、保護者、地域住民を含め、日々努力ある活動を行っていただいている。今後は各校・園に設置されるコミュニティ・スクールの場を活用し、さらに大磯らしい教育環境が確立されることを期待する。 これからも教育現場のみならず、町ぐるみで子ども達を育てていけるよう、教育委員も地域の方々と交流も含め、常に連携を保てるよう努めたい。

#### 4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】（敬称略、項目ごとの記述記載順：欄中○印）

氏名	所属等	備考
竹内 清	元教育委員	
武沢 護	早稲田大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 客員教授	

#### 【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ①内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか（内部評価の妥当性）
- ②内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針（指導・助言）

なお、各項目の記述については、外部評価者ごとに（○印）、順に記載しました。

#### （1）教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議が法令等に則り、計画通り毎月1回、計12回適切に開催された。何度か傍聴したが、いずれも活発で真摯な議論がなされていた。また、感染予防対策をはじめ細かな配慮がなされ、傍聴しやすい雰囲気を感じ取った。</p> <p>評価項目①については、会議の充実を図るため議案等の資料を事前配布し、活発な協議に資するための努力がみてとれる。また、町の広報等で広く町民に周知し、ホームページで議事録を速やかに公開するなど適切に実施していることから評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目②については、直面するさまざまな教育課題、中でもいじめ問題等児童・生徒指導上の問題、中学校給食に伴う課題、新型コロナウイルス感染症対策、コミュニティ・スクールの進め方、教育施設等の課題など諸課題について、委員の多様な意見を取り入れ、適正な意思決定がなされてきた、ということから評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目③については、新型コロナウイルス感染症への対応は、教育を推進する上で大きな影響を及ぼしていることから、予防対策を図りながらの教育活動には多くの制約があったことと思われる。そうした中でも、コミュニテ</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症が拡大と減少を繰り返すなかで、児童・生徒の学習の保障と感染防止のバランスを取りながらの対応に腐心されたことと推察する。</p> <p>そのような「いわゆる非常時」の状況においても、従来からの重要課題である教育施設等長寿命化計画や学校給食、いじめ問題等児童・生徒指導に関わる課題、GIGA スクール構想など山積する諸課題に適切に対応したことがうかがわれる。</p> <p>教育委員会議は大磯町の教育の根幹であり、町民の期待も大きいことは言うまでもない。これまでの委員ならびに事務局の新型コロナウイルス感染症対策への適切な対応、長期的展望に立った教育のあり方の模索、子どもたちへの学習・生活面へのサポート等に敬意を表すとともに、引き続きよりよい教育環境作りに尽力されることを望む。</p>

ィ・スクールの導入に向けての準備、各種計画の策定、私立認定こども園化に伴う課題等多くの今日的課題に適切に対応していることから、評価「A」は妥当である。

評価項目④については、意思決定機関は教育委員会議であるという認識が、地域住民に少しずつでも浸透してきているとのことであるが、広報をはじめとした今までの継続的な取り組みの成果といえる。さらに今後の取り組みとして、審議経過を明らかにするなど地域住民にとってより身近なものとするための手立てを考えていることから、評価「A」は妥当といえる。

評価項目⑤については、将来の大磯町の人口動態等の状況を踏まえ、活力ある学校教育の実現に向け協議を深めるとともに、コロナ禍における学校教育のあり方など今日的な課題について、町長と活発な意見交換がなされたようである。こうしたことから、総合教育会議が有効に機能していることがうかがえるため、評価「A」は妥当である。

総合評価については、教育委員会議の重要性を十分認識し、積極的な取り組みをしていることがうかがえる。喫緊の課題である感染症予防対策を踏まえた「新しい生活様式」への対応のみならず、今後を見据え新たな課題に積極的に対応しようとする姿勢がみてとれることから、評価「A」は妥当である。

○教育委員会議が法令に則り、定例会（12回）が開催され適切に運営されている。

評価項目①については、会議の開催、運営が適切に行われ、議事録の公開は広報誌やホームページ等で積極的に行われていることから、評価「A」は妥当である。

評価項目②については、教科書採択、いじめ問題、コミュニティ・スクール、中学校給食問題などの案件に対し、各委員の多様な意見を取り入れ、事務連絡調整会議と連携し、意思決定機関として適正に機能しており、評価「A」は妥当である。

○令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大対応にあわせ、「新しい学校」の在り方を模索する年度であった。コミュニティ・スクールの運営、ICT教育の推進、大磯幼稚園の問題などさまざまな教育課題が山積した。そうした中でも教育委員各位の、教育行政の運営、地域住民への対応などへ取り組む姿勢は適切であり、その成果も認められる。

引き続き、児童・生徒の生活面や心理面へのサポートなど、健康で安全な学校環境整備や改善に努力していただきたい。

<p>評価項目③における「今日的な課題」は教育委員会にとって非常に重要なものであり、学校関係者だけでなく地域住民にとっても大きな関心事である。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防だけでなく、コミュニティ・スクール導入、大磯幼稚園の私立認定こども園化など難しい課題に対しても適切に対応でき、評価が「A」であることは妥当である。</p> <p>評価項目④では、教育委員会が地域住民にとっていかに身近なものにするかは重要である。教育委員会の努力により、教育施策の意思決定機関としての認識が地域住民に浸透してきており、評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目⑤については、「総合教育会議」を開催することで、首長と教育委員会とが今日的なさまざまな課題について情報共有、意見交換などを行っていることが確認でき、評価「A」は妥当である。</p> <p>最後に総合評価について、今年度は新型コロナウイルス対策に加え、ICT教育の推進など新しい教育の在り方が問われた一年であった。そのような中で各教育委員の日常における真摯な取り組みとその成果が認められ、評価「A」は妥当である。</p>	
---	--

## (2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○事務連絡調整会議は、教育委員会を円滑に運営するために、事前の勉強会や議事内容の確認を行っており、教育委員会には不可欠な会議である。</p> <p>評価項目①について、毎定例会後に計 12 回開催されたが、情報の共有化・確認・調整の場としての役割は大きいものがあり、委員も十分認識していることから、評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目②は、重要事項においては適宜、勉強会を開くなど委員の共通理解を図るための取り組みがなされている。また、将来を見据え</p>	<p>○定例会等重要な会議の開催にあたって、事務連絡調整会議が果たす役割は大きい。臨時会の開催はなかったが、緊急事態が生じた際、直ちに会を開催できるよう常に体制を整えておくことが肝要である。そして、会議の効率的・効果的な運営のために、情報や資料の提供等、引き続き事務局の努力・工夫をお願いしたい。</p> <p>教育長が会議の後半、時間を取って自身が出席した会議や行事について報告することだけにとどまらず、自分の考えや理念等を話しているとのことだが、教育委員会としての</p>

<p>「大磯らしい教育」についてビジョンの方向性が共有できたとの成果もみられることから、評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目③については、重要案件の審議に際して資料提供など事前に周到な準備がなされていたため、議案、テーマについて十分理解することができた、とのことで会議が円滑に運営できたと考えられる。したがって、評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価については、会議に際し事務局が積極的に情報提供をしていること、また、日常の課題等を適切なツールを用いてタイムリーに情報発信していること、こうしたことが会議の円滑な運営につながっているとのことから評価「A」は妥当といえる。</p> <p>○事務連絡調整会議は教育委員会議の円滑な運営のために重要な役割を担っており、定期的に教育委員会議後に開催され、非常に有効に機能していると判断できる。</p> <p>評価項目①に関しては、教育上の問題とりわけ事件・事故など緊急を要する生徒指導上の問題などの処理に対して、適切に対応できる態勢が整っており、評価「A」は妥当なものである。</p> <p>評価項目②については、定例会の通常案件だけでなく町の教育行政を見据えた「教育ビジョン」の策定について議論がなされた点などから評価「A」は妥当である。</p> <p>評価項目③については、教育委員ならびに事務局との円滑な連絡調整が実施されており、教育委員会議が意思決定機関として円滑に運営されることに機能していることがうかがえる。評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価について。令和3年度の教育行政に関わる日常的に起こるさまざまな課題に取り組むなか、教育委員会議の円滑な運営を目的に、情報共有および共通理解を促進する役割が果たせていると判断でき、評価「A」は妥当である。</p>	<p>方向性を定めるための一助になるのではないか。会議時間に制限はあるが、無理のない範囲で継続してほしい。</p> <p>○教育委員会会議や総合教育会議などの円滑な運営のためには不可欠となっている事務連絡調整会議が有効に機能している様子が見えてくる。教育に関わる事案の解決のために、この調整会議の役割は大きい。</p> <p>教育委員ならびに事務局の日常の活動内容に敬意を表し、連絡調整を密にしてこの機能がさらに有効に働くことを期待するものである。</p>
---	--



### (3) 意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○保護者や地域の方々との直接対話を通して諸課題を共有し、教育行政に反映させるための数少ない機会である。</p> <p>評価項目①については、開催に向け可能な範囲の努力をしたようであるが、感染症の収束が見通せないことから開催はできなかったものの、事務局によって要望等の把握はできているとのことなので、評価「B」は妥当である。</p> <p>評価項目②については、令和3年6月に「教育施設等長寿命化計画」が策定され、それに基づいて大磯の教育の長期ビジョンを検討する中で意見等を生かしていくとのことから、評価「B」は妥当と考える。</p> <p>「総合評価」については、「評価項目」①②の評価は「B」であるが、会を開催できなかったから「B」になったのであろう。その観点からすれば総合評価も「B」は妥当である。しかし、開催できない状況においても相当の努力をし、意見・要望の把握に努めていることから「A」に近いとも考えられるのではないか。</p> <p>○教育委員会制度の大きな柱の一つである「地域住民の意向の反映」が必要な理由は、教育が児童生徒の保護者だけでなく、地域住民の関心の高い分野であるからである。このことを考慮すると、地域住民が気軽に参加できる意見交換会や懇談会の実施は非常に重要である。今年度も新型コロナウイルス感染症予防対策のため開催が困難であったが、教育長および事務局を通じて大磯町の教育に関わるさまざまな課題が共有された。</p> <p>評価項目①、評価項目②ともに評価は「B」ではあるが、意見交換会や懇談会を通して「教育施設等長寿命化計画」などが策定されたことは特筆すべきである。</p> <p>全体的に、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のなかでの「意見交換会・懇談会」に対する総合評価が「B」であることは致し方ない。</p>	<p>○前年度、ほとんど開催できなかったが、3年度は何とか開催すべく模索し続けたようである。結果として感染症予防の観点から開催を断念せざるを得なかったことは残念ではあるが適切な判断だったといえる。</p> <p>こうした状況の中、児童・生徒指導をはじめとする子どもたちの課題や施設面の整備など保護者等の要望は事務局を通して把握しているとのことなので、その努力は評価したい。今後は実績や成果をもって保護者や地域に伝えていかれるよう希望する。</p> <p>○教育は児童生徒の保護者だけでなく、地域住民の関心の高い分野であることを考慮すると、地域住民が気軽に参加できる意見交換会や懇談会の実施は非常に重要である。</p> <p>次年度は過去に実施していた中学校地域フォーラムや小学校地区懇談会の実施の再開により、さまざまな地域の意見を集約する機会を持てることを期待したい。</p>

(4) 訪問 (学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○学校・園を訪問することは、教育現場の実態を知るとともに教職員との意見交換を通し、そこでの課題や要望を行政に反映させるための貴重な機会である。</p> <p>評価項目①については、コロナ禍での行事の工夫やタブレットの利用等にかかわる内容にとどまらず、多岐にわたり話し合いがなされた。教職員に寄り添うためにも、今後はさらに意見交換の時間がほしいといった要望があることから、学校・園への思いが感じられる。評価「B」は妥当と考える。</p> <p>評価項目②については、多岐にわたる要望に応えるため、限られた予算をどのように効果的に使うか苦心されたことと推察する。感染症予防対策においては、交付金を有効に活用し、多くの対策を講じ安心・安全な教育施設環境づくりに努めたということであり、評価「B」は妥当である。</p> <p>「総合評価」については、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら多くの教育施設を訪問し、実情把握に努めたことは評価できる。評価の主な根拠に述べてあることを受け止めながら、今後に期待することで評価「B」はやむを得ない。</p> <p>○教育委員にとって、学校・園への訪問は現実には直面しているさまざまな問題を共有できる最良の機会である。幼稚園・保育園、小学校そして中学校には児童生徒の発達段階による問題や課題の違いはあるが、やはり現場を訪問してこそ理解が深まる。</p> <p>昨年度に引き続き、各園、各校とも中心的な課題として、新型コロナウイルス感染症対策が多かった。特に大磯中学校、国府中学校共に、ICT教育推進の中でタブレット端末に関わる課題が取り上げられた。</p> <p>評価項目①については、ICT教育、カウンセリング教育など共通の課題が共有できた。た</p>	<p>○令和3年度は、学校・園に加え教育研究所を入れて訪問箇所を増やすなど前年度より充実させたことは評価できる。感染症対策で行事への参加が制限され、学校・園への訪問が思うようにできなかったことも影響しているであろう。</p> <p>教育研究所への訪問は、個別指導等が必要な子どもたちへの支援の充実という観点からも意欲的に取り組んでいるようすがみとれる。</p> <p>教職員の加配については、教員定数や経費の問題をクリアしなければならないが、子どもたちにきめ細かな指導を保障するとともに教職員の負担軽減といった観点からも評価できる。</p> <p>教育現場の実態を観察し、意見交換することを通して得られた課題等を「生の声」として大切にし、教育行政に反映させようとする姿勢は今後とも継続して行ってほしい。</p> <p>○教育委員による学校訪問は、学校現場と教育委員双方にとって極めて重要なものである。教育委員会が正しく意思決定するためにも各学校の現状をきめ細かく聴き取ることは教育委員自ら各学校現場の問題点を認識する上で不可欠である。</p> <p>さらに、令和4年度から運営されているコミュニティ・スクールとも連携を取りながら、各園、各学校が抱えている問題を共有し、学校運営を町全体でサポートする体制を整備していただきたい。</p>

<p>だ、これに関する解決はなかなか難しい。今年度の評価「B」となっているがこれは致し方ない。</p> <p>評価項目②について、評価「B」ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策臨時特例交付金の獲得など実績をあげた。このような状況の中で教育委員会の努力は十分に評価できる。</p> <p>総合評価に関しては、学校現場から吸い上げられた課題を直ちに解決することはなかなか難しく評価「B」は致し方ないが、この新型コロナウイルス感染症対策に追われる各園、各学校と各教育委員による交流の努力は十分に評価できる。</p>	
--	--

**(5) 訪問 (行事等)**

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○学校や園、生涯学習の行事に参加し、子どもたちや教職員、地域住民と交流を図ることは、日ごろの教育活動とは異なった視点で子どもたちの活動をみることができ貴重な場である。</p> <p>評価項目①については、新型コロナウイルス感染症予防のため、さまざまな工夫のもとで行事が実施された。しかし、行事内容や公開方法が通常時と異なる形態にせざるを得なかったことは子どもたちにとっても残念であったろう。こうしたことから、十分な交流、意見交換ができなかったと思われるので評価「B」はやむを得ない。</p> <p>評価項目②については、行事等には参加できないまでも、事務局との連携の中で取り組み状況の把握に努めたことから、評価「B」は妥当である。</p> <p>総合評価については、園・学校・地域が一体となって、それぞれの立場から子どもたちのために力を尽くそうと工夫・努力したことがよくわかる。評価「B」は致し方ないが今後に期待したい。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症予防対策のために最も大きな影響を受けたものの一つに「行事」があるといえよう。そうした中で各園・学校がそれぞれ工夫を凝らし、何とか子どもたちの発表の場を確保しようとしている姿には頭が下がる。</p> <p>子どもたちは、行事を通して成長するといわれる。普段あまり目立たない子どもが行事への取り組みの過程や発表の場において、すばらしい力を発揮することがある。そういう能力を引き出せるよう、感染症が収まり、計画通り発表できる日が来ることを望んでやまない。</p>

○各学校や各園にとって、授業だけでなく年間のさまざまな行事は児童生徒の発達上、非常に重要な活動である。児童生徒の授業や日常の活動だけからは見えにくい人格的成長を見届けることができるものである。こうしたなか、教育委員の各学校・園への訪問は児童生徒の成長を目の当たりにすることができ、教育行政を執行するために非常に有意義である。しかし、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、さまざまな行事等の訪問を十分に実施できなかったことはやむを得ないことである。

評価項目①や評価項目②の評価がともに「B」であることは致し方ない。

総合評価についても、評価「B」は妥当である。教育委員や事務局が限られた状況のなかで、精力的に訪問に取り組んでいただいた。引き続き大磯町の教育行政の充実のために努力していただきたい。

○令和3年度も引き続き、限られた状況のなかでの実施であった。教育委員各位が多忙な中で、学校教育だけでなく、生涯教育にかかわる行事への参加することは非常に重要である。

全国に誇れる自然環境と教育環境をもつ大磯町の子どもたちの成長、そしてまた町民の生涯教育という視点での教育行政の充実に向けて、健康的で文化的な行事や地域住民との協力を通して大磯町の教育のさらなる充実をめざしていただくことを願っている。

## Ⅱ 「令和3年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

### 1 学校教育

#### 《基本方針》

幼稚園においては、「遊びを中心にさまざまな経験を通じて、家庭ではぐくまれてきた「生きる力」の基礎を確立する」ことを基本方針とします。

また、小中学校においては、学習指導要領における「生きる力」の理念や『大磯町第五次総合計画』の「柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり」に掲げる「次世代を担う人づくりの推進」の趣旨を踏まえるとともに、教育大綱の基本方針である、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育と、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりの実現を目指します。

#### 《目標》

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々の協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 幼稚園と保育所の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
3. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりや大磯らしい特色ある学校づくりに努めるとともに、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育を目指します。
4. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、「大磯らしい」美しい自然と由緒ある歴史・文化を大切にす教育を目指して教育活動の展開を図ります。
5. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町村との広域的人事交流も推進します。

#### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 町立幼稚園における預かり保育の拡充
- ② 公立幼稚園の認定こども園化についての検討
- ③ 職員の研究・研修
- ④ ICTを活用した教育の充実
- ⑤ 中学校給食の推進（義務教育9年間の学校給食を通じた食育の推進）
- ⑥ いじめ問題への対応
- ⑦ 社会に開かれた教育課程の実現
- ⑧ 施設設備の修繕等を計画的に実施
- ⑨ 教育研究所における教育相談体制の充実

## (2) 課題別点検評価

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

### ① 町立幼稚園における預かり保育の拡充

令和元年10月から開始された幼児教育・保育の無償化に伴う、保育ニーズの変化に注視しながら、町立幼稚園における預かり保育を長期休業中も実施し、子育て支援を推進します。

実施状況	成果	評価	課題
保護者の保育ニーズに対応し、夏季休業等の長期休業中の実施回数を拡充した。	町立幼稚園2園の預かり保育実施回数が、令和2年度の258回から令和3年度は280回となり、22回増加した。	A	今後も増加が見込まれる保育ニーズに対応するため、預かり保育の拡充を検討する必要がある。職員の確保に努める必要がある。

### ② 公立幼稚園の認定こども園化についての検討

令和2年度から6年度までの5か年計画である『第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン』に基づき、公立幼稚園の認定こども園化について進めていきます。

実施状況	成果	評価	課題
PTAからの要望書や陳情等の内容を踏まえ、大磯町内在住の子育て世帯を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果を基に、大磯幼稚園保護者との意見交換会を開催し、民営化への理解を求めるとともに意見聴取を行った。設置運営事業者の募集・選定準備を行った。	アンケート調査の結果や保護者から聴取した意見をもとに、民営化による公私連携幼保連携型認定こども園移行に係る要件の見直しを行った。 設置運営事業者の募集・選定について、他自治体の取り組み方を情報収集するなど、事業者募集要領等を作成する準備を進めた。	C	コロナ禍により保護者への説明等が行き届かず予定どおりの進捗が図れなかったこともあったため、民営化によるこども園の設置について、広く町民の意見を聴取する場を改めて設定し、子育て世代の保護者及び地域住民等に事業実施に対する理解を求めていく必要がある。 設置運営事業者の募集にあたっては、大磯幼稚園を令和5年度末で廃止するための条例改正を行い、募集条件に保護者の意見を反映させていく。

### ③ 職員の研究・研修

新学習指導要領の全面実施を踏まえ、児童・生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うため、引き続き町立学校全校において、「大磯学びづくり推進研究事業」に基づく日常授業の改善・充実に向けた研究・研修を行い、教師の指導力向上、児童・生徒の学力向上を目指します。

実施状況	成果	評価	課題
<p>大磯学びづくり推進研究事業を継続し、2小学校2中学校で実践研究に取り組んだ。各校の校内研究テーマを生かしながら、実践研究や研修を実施した。</p> <p>日常授業改善のための小中相互訪問事業及び大磯町教育研究所の研究・研修事業等を通じて、教員の指導力向上に努めた。</p>	<p>学びづくり担当者会での共有や校内研究会の相互訪問等を通じて、各校が取り組んでいる研究・研修の成果を、町全体で共有することができた。</p>	C	<p>新型コロナウイルス感染症への対応等により、新学習指導要領に示された教育の質的転換に対して、全ての面で対応できたとは言い切れない。今後、コロナ禍における研修・研究の在り方について、さらなる検討が必要である。</p>

### ④ ICT を活用した教育の充実

GIGA スクール構想に基づき、児童・生徒に1人1台の整備が完了したタブレット PC や大型提示装置等の ICT 関連機器の活用に向けた研修等の工夫・改善に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>授業におけるタブレット PC の積極的な利用を含め、ICT を活用したプログラミング的思考を育む教育のさらなる充実を図るため、ICT 教育研修会を実施するとともに、校内研修を活用するなどして、ICT 関連機器活用の充実を図った。</p>	<p>児童・生徒一人ひとりが授業の中でタブレット端末を利用して調べたり、自分の考えをまとめたりするなどの活用が増えた。</p> <p>教員同士が校内でタブレット端末の活用事例を共有するなどして、多くの教科等で ICT 関連機器を利用することが増えた。</p>	B	<p>ICT 活用研修などにより一人ひとりが努力してはいるが、まだまだ教員間での ICT 機器の操作スキルについては差があり、働き方改革を意識しながらも引き続き研修等の機会を設けていく必要がある。</p>

⑤ 中学校給食の推進（義務教育9年間の学校給食を通じた食育の推進）

各学校における「食育」の推進のため、大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を積極的に実践します。

また、中学校給食の再開までの間、昼食支援を実施します。

実施状況	成果	評価	課題
<p>栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援を実施し、食に関する指導を行った。</p> <p>中学校給食の在り方については、「大磯町教育施設等長寿命化計画」を考慮し、検討を行った。</p> <p>また、給食再開までの暫定的な措置として、令和3年9月から、家庭の状況により弁当を持参することが難しい場合に、栄養バランスに配慮した希望注文制弁当の提供を実施した。</p>	<p>大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」をもとに、栄養教諭による食に関する指導を実施した。</p> <p>中学校給食については、希望注文制弁当の提供により、家庭から弁当を持参することが難しい生徒への対応を図ることができた。</p>	<p>C</p>	<p>中学校給食については、自校方式と決定してはいるものの、「大磯町教育施設等長寿命化計画」を考慮し、検討していく必要がある。</p> <p>引き続き、家庭から弁当を持参することが難しい生徒への対応を図っていく必要がある。</p> <p>中学校給食休止に伴う家庭への経済的負担の軽減に加え、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う経済的負担の軽減のために支援を行う必要がある。</p>



## ⑥ いじめ問題への対応

『大磯町いじめ防止対策基本方針』に基づくいじめ問題への取組を着実に進めます。引き続き、いじめ・体罰防止のための研修、適正な評価処理の研修など安全管理及び教員の事故・不祥事防止に努めると共に、重大事態の対応及び再発防止に取り組むため、スクールロイヤーの充実に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>大磯町いじめ問題対策・調査委員会を年2回開催し、町及び学校のいじめ防止に関する取り組みを協議し、取り組みの改善に結びつけることができた。</p> <p>各校の児童・生徒指導を担当する教員に対して「いじめ防止対策推進法」に基づき、いじめ定義の理解及び認知について周知するとともに、担当教員を通じて全教職員へ周知を図った。</p>	<p>大磯町いじめ問題対策・調査委員会で協議した内容を各校へ還元することで、いじめ防止に関する取り組みがより充実した。</p> <p>スクールロイヤーの配置により、いじめ問題に対して法に基づく対応を学校が今まで以上に意識することができた。</p>	B	<p>いじめの認知に係る各教員の認識の違いはかなり改善されてきたが、今後も、どの教員も共通していじめ認知ができるように、周知を続けていく必要がある。</p> <p>法に基づくいじめの定義等について、保護者や地域に対して今まで以上に発信し、理解を求めていく必要がある。</p>

## ⑦ 社会に開かれた教育課程の実現

「開かれた学校」づくりを通じ、学校とPTA・地域・関係諸機関との協働・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。また、新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、推進協議会を中心に、令和4年度のコミュニティ・スクール導入に向けた研究・研修を実施します。

実施状況	成果	評価	課題
<p>令和2年度に引き続き、コミュニティ・スクール推進協議会を中心として、コミュニティ・スクールの研究を実施した。</p> <p>コミュニティ・スクールマイスターを講師として、コミュニティ・スクールについて理解を深めるための研修会を各校で実施した。</p>	<p>研修・研究を通じて、コミュニティ・スクールへの理解がより深まり、令和4年度より全ての町立園・学校において学校運営協議会制度を導入することとなった。</p>	B	<p>社会に開かれた教育課程の実現を目指して、学校運営協議会で熟議することにより、具体的な方策を決めていく必要がある。</p>

### ⑧ 施設設備の修繕等を計画的に実施

児童・生徒が安全・安心に施設の利用ができるようにするため、今後の児童生徒数や将来の財政状況を見据え、『教育施設等長寿命化計画』に基づき、計画的に施設設備の修繕等を行います。

実施状況	成果	評価	課題
<p>老朽化する学校施設に対し、定期的に各種点検を行い、不具合が見られる箇所の早期発見・修繕等の実施に努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、小中学校の手洗いの自動水栓交換工事、及び網戸設置工事を実施した。</p>	<p>安全に安心して学習に取り組むことができる環境を維持することができた。</p> <p>感染症対策として、手洗い場を自動水栓に交換し、エアコンの使用中でも換気を行う必要があることから、網戸の設置を全校に実施することができた。</p> <p>「大磯町教育施設等長寿命化計画」を策定し、修繕等の優先順位の方向性を定めた。</p>	B	<p>老朽化する学校施設を維持する上で、日常的な点検を踏まえた修繕は必要不可欠であるが、今後も文部科学省が定める「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に基づく整備を行っていく必要がある。</p> <p>また、老朽化対策と教育環境向上に向けた整備に加え、バリアフリー化の推進、防災機能の強化、脱炭素化等を踏まえた施設整備が求められていることから、文部科学省通知を踏まえ、首長部局との間で部局横断的な検討体制の構築を図っていく必要がある。</p>

### ⑨ 教育研究所における教育相談体制の充実

教育研究所に配置しているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや専任教諭により、生活面や学習面で発達の・心理的・情緒的な問題を抱えている子どもたちに対する支援を行い、その保護者と関係教職員に対する教育相談等を行います。

実施状況	成果	評価	課題
<p>いじめ、不登校をはじめとする様々な教育課題に対応するため、教育研究所にスクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)・教育指導員・教育支援室専任教諭を配置した。</p> <p>いじめ等をはじめとする学校課題に対して法的に対応するため、スクールロイヤーを配置した。</p>	<p>SC及びSSWの勤務日数を確保し、学校や保護者からの要請に従い、各種相談に対応することができた。</p> <p>スクールロイヤーの配置により、難しい事案に対して管理職が一人で抱えることなく、法的な側面から適切な助言を受けることで、安定的に事案に対応することが可能となった。</p>	B	<p>専門職が配置されたことが学校で認識されていることや、安心して相談できる気安さもあることから、SCやSSWへの相談件数が増加している。同時期にケース数が増えると、SCやSSWが丁寧に対応する時間の確保が難しくなる。安定した相談体制を整えるためには、専門職の配置数を増やすなどのさらなる対策が必要と考える。</p>

## 2 生涯学習

### 《基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、先人から引き継いだ伝統行事や文化財など文化資源に愛着と誇りを持ち、次世代への継承を支援し、新たな文化の創造を推進します。また、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、自らが得た知識を地域に活かす生涯学習社会の実現を目指します。

### 《目標》

1. 町民のだれもが豊かに生きるための様々な学びを把握し、支援するとともに、学習情報を積極的に発信し、学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. 生涯にわたってともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを進めます。
3. 広く生涯学習の情報を集め、希望する情報をすぐに提供できる生涯学習のまちづくりを進めます。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 大磯町第三次生涯学習推進計画の適正な進行管理
- ② 青少年健全育成活動の推進
- ③ 生涯学習の推進と学習団体への支援
- ④ 明治記念大磯邸園整備事業における文化財保護の観点から国・県との連携
- ⑤ 人権啓発活動の推進

### (2) 課題別点検評価

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

#### ① 大磯町第三次生涯学習推進計画の適正な進行管理

大磯町第三次生涯学習推進計画の適正な進行管理を行い、計画の実現性を高めます。

実施状況	成果	評価	課題
第三次生涯学習推進計画の進捗管理・評価を行った。また、課題等の把握を行った。 社会教育委員会議により、年3回の進行管理を行った。	社会教育委員会議において、計画の進行管理を行うことで、定期的に生涯学習事業の点検・評価や事業への要望・課題を取り上げることができた。	B	第三次生涯学習推進計画の進行管理の方法について、さらに検討の余地があると考ええる。

## ② 青少年健全育成活動の推進

青少年指導員、PTA連絡協議会、その他関係団体と連携を図り、青少年の健全育成に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>青少年指導員連絡協議会と連携して諸活動の計画・運営を行った。</p> <p>学校、青少年関係団体、行政関係課職員で構成される青少年健全育成連絡会を開催した。</p>	<p>青少年指導員連絡協議会の総会1回、定例会8回を開催した。</p> <p>青少年指導員連絡協議会の自主事業としてナイトミュージアム&amp;ハイクとデイキャンプを開催した。</p> <p>青少年健全育成連絡会の開催により、学校、青少年関係団体、行政関係課の間で、連絡調整、情報交換が図られた。</p>	B	<p>青少年指導員連絡協議会の活動量に対して青少年指導員の人数が充足しておらず、指導員の補充が必要である。</p> <p>青少年健全育成連絡会の内容の充実を図る必要がある。</p>

## ③ 生涯学習の推進と学習団体への支援

「生涯学習人材登録」や県生涯学習情報システム「PLANETかながわ」を活用した講座を開催するとともに、町民の主体的・自主的な活動支援をするための生涯学習情報の収集と提供に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>青少年おもしろ講座、ファミリー教室、おおいそシニア教室、OISO学び塾等各種講座を開催した。</p> <p>家庭の教育機能の活性化を図るため、PTAに交付金を交付し、事業を支援した。</p> <p>生涯学習人材登録の更新と講座等の企画を募った。</p> <p>人材登録情報と、団体登録情報をまとめ、PLANETかながわでの情報提供の他に冊子「OISO学びバンク」を発行した。</p>	<p>コロナ禍において、感染症対策を行いながら、ライフステージ・ライフスタイルに応じた学習機会と、豊かな心・生きがいを支える学習機会の提供に努めた。</p> <p>年間で16講座を開催し、参加人数は延べ292人であった。</p> <p>大磯町立学校PTA連絡協議会が行う、子どもSOS事業に対して、交付金を交付した。</p>	B	<p>子ども会活動等補助団体の活動がコロナ禍により、減少しており、活動の援助について検討する必要がある。</p> <p>「OISO学びバンク」を発行したが、認知度が低いので、広く周知や活用の仕方を検討する必要がある。</p> <p>オンラインを活用した講座等をスムーズに行えるよう、機材の設定等の準備をする必要がある。</p>

④ 明治記念大磯邸園整備事業における文化財保護の観点から国・県との連携

明治記念大磯邸園整備事業について、文化財保護の観点から国・県との連携を図ります。

実施状況	成果	評価	課題
<p>明治記念大磯邸園内の旧池田成彬別邸（西園寺公望別邸跡）の町指定有形文化財への指定を行った。</p> <p>明治記念大磯邸園内滄浪閣、旧大隈重信別邸・旧古河別邸、旧古河別邸（陸奥宗光別邸跡）の現状変更を行った。</p>	<p>明治記念大磯邸園内の旧池田成彬別邸（西園寺公望別邸跡）の指定を行うことにより、活用計画の作成に着手し、公開に向けた整備事業を進めることができた。</p> <p>明治記念大磯邸園内滄浪閣、旧大隈重信別邸・旧古河別邸と旧古河別邸（陸奥宗光別邸跡）の現状変更を行うことにより、活用計画に着手し、公開に向けた整備事業を進めることができた。</p>	B	<p>貴重な建造物の保存と活用を図れるように、国・県と事務調整を綿密に図る必要がある。</p>

⑤ 人権啓発活動の推進

誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを目指し、身近な問題として人権意識を高める人権教育講演会を開催し、人権への理解を深めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>人権担当の社会教育指導員を配置した（1人）。</p> <p>年間を通して、人権研修へ参加した。</p> <p>町民向けに人権教育講演会を集会とオンライン併用で開催した。</p> <p>新採用職員向け人権研修会を行った。</p>	<p>各人権研修、大会が中止される中、開催された人権研修に15回参加した。積極的に情報収集を行うとともに、関係機関等へ情報提供し、啓発に努めた。</p> <p>社会教育指導員が講師を勤め、職員研修を行い、職員の人権意識を高めることができた。</p>	B	<p>町民の人権意識の向上を図るため、コロナ禍での啓発活動に工夫をするとともに、学習機会を増やす必要がある。</p>

### **3 図書館**

#### 《基本方針》

乳幼児から高齢者まであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書館利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

#### 《目標》

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(\*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。
3. まちづくりなど、地域の課題解決に必要な郷土・地域資料の収集・提供に努め、町民の自主的な生涯学習活動を支援します。
4. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

#### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 図書館利用の普及
- ② 子ども読書活動の推進
- ③ コロナ禍での図書館サービスの推進

## (2) 課題別点検評価

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

### ① 図書館利用の普及

「大磯町立図書館サービス計画（附）第四次大磯町子ども読書活動推進計画」（以下、「計画」という。）に基づき、図書館利用の普及に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>人口1人当たりの個人貸出数（点）（*1）</p> <p>人口1人当たりの入館者数（回）（*2）</p> <p>図書館の0歳から18歳までの人口1人当たりの個人貸出数（冊）（*3）</p> <p>学校図書館の児童・生徒1人当たりの貸出数（冊）（*4）</p> <p>学校図書館蔵書更新率（%）（*5）</p>	<p>人口 31,392 人に対し貸出数は 140,903 点であり、1人当たりの貸出数は 4.48 点であった。</p> <p>人口 31,392 人に対し入館者は 118,135 人であり、1人当たりの入館者数は 3.76 回であった。</p> <p>0歳から18歳までの人口 4,619 人に対し児童書の貸出数は 42,194 冊で1人当たりの個人貸出数は 9.13 冊であった。</p> <p>小中4校の児童・生徒数は 2,251 人に対し、貸出数は 22,967 冊であり1人当たりの貸出数は 10.2 冊であった。</p> <p>小中4校の蔵書数 40,651 冊に対し受入・廃棄数は 4,548 冊で蔵書更新率は 11.19%であった。</p>	B	<p>*1 計画の目標値は6.11点以上</p> <p>*2 計画の目標値は5.87回以上</p> <p>*3 計画の目標値は11.1冊以上</p> <p>*4 計画の目標値は11.0冊以上であったが、コロナ禍で臨時休館などの利用制限があり、いずれも目標値を下回ったので、少しでも数値が上がるように創意工夫する必要がある。</p> <p>*5 計画の目標値は7.3%であり、除籍を積極的に行った成果が現れた。引き続き新刊の受入れと除籍を効率的に行っていく必要がある。</p>

### ② 子ども読書活動の推進

学校図書館と情報を共有し、ブックリストの作成、授業支援のための本の貸出し、放課後子ども教室への協力などにより、子どもたちの読書・学習環境の整備に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>学校図書館管理ソフトウェアを小中4校に導入し、学校図書館運営の効率化を図った。</p> <p>授業支援のための本の貸出しを各校に行った。</p>	<p>小中4校の学校図書館の貸出数は 2,697 冊であった。</p> <p>各校への団体貸出しは 343 冊であった。</p>	B	<p>学校司書や教諭をはじめとする学校との連携をさらに進める必要がある。</p>

### ③ コロナ禍での図書館サービスの推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した図書館サービスの調査・研究に努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>児童文学講演会を3年ぶりに開催した。</p> <p>おはなしボランティア養成講座を2回開催した。</p> <p>大磯図書館まつりを開催した。</p> <p>電子図書館を開設した。</p>	<p>児童文学講演会は、町内在住の講師に依頼することで、感染リスクを抑えた。参加者数は20人であった。</p> <p>おはなしボランティア養成講座は、講師を職員が担当することで、感染リスクを抑えた。参加人数は12人であった。</p> <p>大磯図書館まつりは、一般成人向けと児童・生徒向けの催しを区分して開催し、一般成人向けの古本市の参加者数は115人で児童・生徒向けは32人であった。また児童向けの図書館クイズの参加者数は19人であった。</p> <p>電子図書館の登録者は、9,868人。貸出数は974タイトルであった。</p>	<p>B</p>	<p>感染リスクを抑える工夫を継続して調査・研究する必要がある。</p> <p>電子図書館については各分野の利用状況を参考にして、電子書籍の選定をしていく必要がある。</p>



## 4 郷土資料館

### 《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

### 《目標》

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 郷土資料館と旧吉田茂邸の一体的運営
- ② 資料を良好な状態で保存するためのより良い環境づくり

### (2) 課題別点検評価

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

#### ① 郷土資料館と旧吉田茂邸の一体的運営

郷土資料館と旧吉田茂邸を一体的に運営し、相乗効果が表れる効率的な企画を進めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>郷土資料館本館及び旧吉田茂邸において、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しつつ、開館業務を行った。旧吉田茂邸については展示環境の整備のため、調度品「吉田茂書掛軸」の複製を制作した。</p> <p>郷土資料館本館の企画展については、「旧高麗寺ゆかりの神像、仏像修理」及び「堀文子と大磯」を開催した。当初、秋に開催を予定していた「資料と証言に見る大磯と戦争」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示を取りやめ、図録のみ刊行した。</p> <p>本館のミニ企画展は「大磯と東京オリンピック 1964」を、旧吉田茂邸のミニパネル展では「吉田茂の愛犬たち」及び「別荘地大磯と吉田茂」を開催した。</p>	<p>郷土資料館本館は、令和3年7月3日は大雨のため、7月6日から11日までは館内燻蒸のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それぞれ臨時休館とした。年間の観覧者は24,091人。</p> <p>旧吉田茂邸は、令和3年7月3日を大雨のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それぞれ臨時休館とした。年間の観覧者は16,175人。</p>	A	<p>引き続き、感染症対策に配慮した開館業務を行う。</p> <p>郷土資料館本館と、別館である旧吉田茂邸において、近現代史を軸として、回遊できるような環境づくりを推進する。</p>

② 資料を良好な状態で保存するためのより良い環境づくり

燻蒸を実施し、収蔵資料をより良い状態で保存・活用するための環境づくりに努めます。

実施状況	成果	評価	課題
<p>経年劣化のため不具合が生じている空調機を更新するため、第1期空調設備改修工事を行った。</p> <p>常設展示室及び各収蔵庫の燻蒸を実施し、収蔵資料をより良い状態で保存・活用するための環境整備に努めた。</p>	<p>研修室系統、エントランスホール・展示ホール系統、常設展示室系統の空調設備を更新した。</p> <p>燻蒸を行ったことにより、収蔵資料の良好な保存状態を保つことができた。</p>	<p>A</p>	<p>令和3年度に引き続き、令和4年度には休憩室系統、企画展示室系統を更新する第2期空調設備改修工事を実施する。</p> <p>また、令和3年度に実施した本館の燻蒸に引き続き、東蔵（収蔵庫として使用）の燻蒸を実施する。</p>

## Ⅲ 資料編

### 1 関係法令

#### (1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第27条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

#### (2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19文科初第535号 平成19年7月31日 文部科学事務次官通知）

##### 第一 改正法の概要

##### 1 教育委員会の責任体制の明確化

##### (3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第27条）

##### 第二 留意事項

##### 1 教育委員会の責任体制の明確化

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

### 2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/kyoikuiinkaiteireikai/index.html>

### 3 令和3年度 教育委員会基本方針

令和3年2月18日大磯町教育委員会第11回定例会で決定

大磯町教育委員会では、教育委員会の活動に対し、自らの点検・評価及び外部評価を実施し、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、地方教育行政の推進に努めてまいりました。

こうした中、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日に施行され、新しい教育委員会制度がスタートしました。町では法律の趣旨に則り、町長と教育委員会をもって構成する総合教育会議において、「いのち」「こころ」（～自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり～）を基本理念とする『大磯町教育大綱』を策定しています。

大磯町教育委員会では、教育大綱を尊重し、「いのち」と「こころ」を輝かせる3つの力、すなわち「知力」（自らの可能性を広げる基盤となる、知的好奇心をはぐくみます）、「体力」（新しい時代をたくましく生きる原動力となる、心身の健康をはぐくみます）、「共感力」（伝え合い、理解し合い、相手を思いやる心につながる、人や自然への優しさをはぐくみます）の育成を目指し、教育行政の推進に努めてまいります。

#### 《学校教育の基本方針》

幼稚園においては、「遊びを中心にさまざまな経験を通じて、家庭ではぐくまれてきた「生きる力」の基礎を確立する」ことを基本方針とします。

また、小中学校においては、学習指導要領における「生きる力」の理念や『大磯町第五次総合計画』の「柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり」に掲げる「次世代を担う人づくりの推進」の趣旨を踏まえるとともに、教育大綱の基本方針である、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育と、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりの実現を目指します。

#### 〔目標〕

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々の協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 幼稚園と保育所の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
3. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりや大磯らしい特色ある学校づくりに努めるとともに、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育を目指します。
4. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、「大磯らしい」美しい自然と由緒ある歴史・文化を大切にする教育を目指して教育活動の展開を図ります。
5. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町村との広域的人事交流も推進します。

#### 〔重点施策〕

##### 1. 幼稚園

- (1) 幼児期の早い段階に集団生活の中で多くの経験を共有することは児童の自発的な行動を

促すことにつながるため、町立幼稚園において実施してきた満3歳児を対象とした保育事業を継続実施します。

- (2) 令和元年10月から開始された幼児教育・保育の無償化に伴う、保育ニーズの変化に注視しながら、町立幼稚園における預かり保育を長期休業中も実施し、子育て支援を推進します。
- (3) 令和2年度から6年度までの5か年計画である『第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン』に基づき、公立幼稚園の認定こども園化について進めていきます。
- (4) 子ども発達相談員（臨床心理士）が町内の幼稚園・保育園・認定こども園等を巡回し実施している相談事業については就学前後の移行期においても情報連携を強化していきます。

## 2. 小学校・中学校

- (1) 小学校低学年での実施を基本として35人以下学級編制を実施します。また、中学校における生徒指導及び進路指導等の課題に対応するため、必要に応じ、35人以下学級編制の実施を支援します。
- (2) 各学校において、ティームティーチング(\*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努めます。
- (3) 幼児・児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、幼稚園・保育所と小学校及び小学校と中学校の連携を継続して進めます。
- (4) 新学習指導要領の全面実施を踏まえ、児童・生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うため、引き続き町立学校全校において、「大磯学びづくり推進研究事業」に基づく日常授業の改善・充実に向けた研究・研修を行い、教師の指導力向上、児童・生徒の学力向上を目指します。
- (5) GIGAスクール構想(\*)に基づき、児童・生徒に1人1台の整備が完了したタブレットPCや大型提示装置等のICT(\*)関連機器の活用に向けた研修等の工夫・改善に努めます。
- (6) 各学校における「食育」の推進のため、大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を積極的に実践します。
- (7) 県のインクルーシブ教育(\*)の方針を踏まえ、町として障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもが共に学びあう教育を推進し、互いを理解しながら、社会性や思いやりのこころを育みます。
- (8) 支援を必要とする児童・生徒に対して教育支援員(\*)の配置を充実させるとともに、個別的な学習支援に対応するため、指導協力員(\*)の配置を進め、児童・生徒に対する支援体制の一層の強化を図ります。
- (9) いじめ・不登校・虐待をはじめとする様々な課題に対応するため、スクールカウンセラー(\*)やスクールソーシャルワーカー(\*)を中心に、各学校の教育相談コーディネーター、心の教室相談員などの相談支援体制を充実するとともに、県立特別支援学校のセンター機能を活用し、教育相談及び児童生徒指導体制を図ります。
- (10) 『大磯町いじめ防止対策基本方針』に基づくいじめ問題への取組を着実に進めます。引き続き、いじめ・体罰防止のための研修、適正な評価処理の研修など安全管理及び教員の事

故・不祥事防止に努めると共に、重大事態の対応及び再発防止に取り組むため、スクールロイヤー（＊）の充実を図ります。

- (11) 読書活動の推進のため学校図書館司書を全校に配置し、学校図書館を子どもたちにとって親しみやすい場所にするとともに調べ学習のニーズへの的確に応えられるようにします。また、子どもたちがより一層読書に親しむ機会と推奨すべき図書の提供に向け、学校図書館の機能を活用するとともに、小学4年生の学級指導等の機会を通じて大磯町立図書館との連携を図ります。
- (12) 「開かれた学校」づくりを通じ、学校とPTA・地域・関係諸機関との協働・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。また、新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、推進協議会を中心に、令和4年度のコミュニティ・スクール（＊）導入に向けた研究・研修を実施します。
- (13) 児童・生徒の体力向上について、日常における「外遊び」の推奨や、『大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針』を元に、各学校の取組状況を検証し、引き続き特色ある取組を推進します。
- (14) 児童・生徒が安全・安心に施設の利用ができるようにするため、今後の児童生徒数や将来の財政状況を見据え、『教育施設等長寿命化計画』に基づき、計画的に施設設備の修繕等を行います。
- (15) 新型コロナウイルスなどの感染症拡大防止対策に努めた教育を実施します。
- (16) 国の推進する「働き方改革」を受け、「教職員の心身の健康やワーク・ライフ・バランスにつなげる」、「仕事効率の向上により、教職員が子どもと向き合う時間を確保する」、「職員の働きやすい職場環境の実現を推進する」という趣旨と目的のもと、勤怠管理システムを導入し、引き続き、働き方改革に取り組みます。
- (17) 平成31年3月に策定した「大磯町立学校に係る部活動の方針」をもとに、部活動等の在り方についてさらに研究します。
- (18) 中学校給食の再開までの間、昼食支援を実施します。

### 3. 教育研究所

- (1) 幼・小・中の連携の中核として、教職員の自主的な研修ならびに系統的・教科等横断的な授業研究のさらなる充実を図ります。
- (2) 教職員を対象に教育課題に応じた研修の機会を設定し、教職員の資質向上・指導力向上を図ります。また、児童・生徒を対象とした講座を開催します。
- (3) 教育研究所に配置しているスクールカウンセラー（＊）、スクールソーシャルワーカーや専任教諭により、生活面や学習面で発達の・心理的・情緒的な問題を抱えている子どもたちに対する支援を行い、その保護者と関係教職員に対する教育相談等を行います。
- (4) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理を進め、活用を図ります。
- (5) 教育研究所においては、引き続き教職員が研修しやすい環境づくりに努めていきます。

## 《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、先人から引き継いだ伝統行事や文化財など文化資源に愛着と誇りを持ち、次世代への継承を支援し、新たな文化の創造を推進します。また、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、自らが得た知識を地域に活かす生涯学習社会の実現を目指します。

### 〔目標〕

1. 町民のだれもが豊かに生きるための様々な学びを把握し、支援するとともに、学習情報を積極的に発信し、学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. 生涯にわたってともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを進めます。
3. 広く生涯学習の情報を集め、希望する情報をすぐに提供できる生涯学習のまちづくりを進めます。

### 〔重点施策〕

1. 大磯町第三次生涯学習推進計画の適正な進行管理を行い、計画の実現性を高めます。
2. コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の実現に向けて、広く他市町の状況や本町の地域情報を収集し、情報整備に努めます。
3. 青少年指導員、PTA連絡協議会、その他関係団体と連携を図り、青少年の健全育成に努めます。
4. 「生涯学習人材登録」や県生涯学習情報システム「PLANETかながわ」を活用した講座を開催するとともに、町民の主体的・自主的な活動支援をするための生涯学習情報の収集と提供に努めます。
5. 生涯学習館の使用並びに講座の実施において、新型コロナウイルス感染症感染予防・拡大防止を徹底するとともに、コロナ禍で急速に普及が広まったオンラインでの学習方法を研究し、学習機会を提供します。
6. 文化祭運営委員会と連携して「おおいそ文化祭」参加団体の自立的な取り組みを支援するとともに、おおいそ美術展を開催して、個人の文化・芸術活動の活性化を図ります。
7. 社会教育施設（生涯学習館、図書館、郷土資料館）をはじめとした生涯学習関連施設・機関との連携を図り、生涯学習計画の推進に努めます。
8. 明治記念大磯邸園整備事業について、文化財保護の観点から国・県との連携を図ります。
9. 町内に所在する指定文化財の候補について、文化財専門委員会議への諮問等、指定に向けた手続きを進めます。
10. 文化財資料等の保存・活用を図るため、調査等により蓄積された資料の整理を行うとともに、大磯町文化財調査報告書第52集『(仮称)小島本陣休泊帳調査報告書』を刊行します。
11. 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを目指し、身近な問題として人権意識を高める人権教育講演会を開催し、人権への理解を深めます。

## 《図書館の基本方針》

乳幼児から高齢者まであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書館利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

### 〔目標〕

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(\*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。
3. まちづくりなど、地域の課題解決に必要な郷土・地域資料の収集・提供に努め、町民の自主的な学習活動を支援します。
4. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

### 〔重点施策〕

1. 「大磯町立図書館サービス計画（附）第四次大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館利用の普及に努めます。
2. 学校図書館と情報を共有し、ブックリストの作成、授業支援のための本の貸出し、放課後子ども教室への協力などにより、子どもたちの読書・学習環境の整備に努めます。
3. ホームページを活用し、郷土資料の公開や、図書館資料のテーマ別展示・紹介、レファレンスサービスの回答集の作成など、図書館情報の発信に努めます。
4. 『教育施設等長寿命化計画』に基づき、施設・設備の点検・調査に努めます。
5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した図書館サービスの調査・研究に努めます。

## 《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

### 〔目標〕

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

### 〔重点施策〕

1. 郷土資料館と旧吉田茂邸を一体的に運営し、相乗効果が表れる効率的な企画を進めます。
2. 旧吉田茂邸について、関係する団体と相互連携を保ち、円滑な運営を進めます。
3. 各種ワークショップを開催し、住民と協働による博物館活動を展開します。
4. 燻蒸を実施し、収蔵資料をより良い状態で保存・活用するための環境づくりに努めます。
5. 老朽化した空調設備を更新することにより、施設の適正な維持管理に努めます。
6. 広報紙やインターネット等、多様な媒体を活用した広報活動に努めるとともに、各種団体と連携し、効果的な情報発信を行います。



## 【\*用語の解説】

### ティームティーチング

複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。略称 TT。リーダーの教師を中心として、何人かの教師たちが協力しあい、授業を行う。

### ICT

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称である。従来用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、「コミュニケーション」が加わっている点に特徴がある。

### GIGA スクール構想

Global and Innovation Gateway for All の略。

義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用 PC と高速ネットワーク環境などを整備する計画で、子どもたち一人ひとりの個性に合わせた教育の実現を目的とする。

### スクールカウンセラー

各学校において支援体制の構築及び相談機能の充実、教職員との協力体制を密にする目的で教育研究所に配置した公認心理士及び臨床心理士。

### スクールロイヤー

スクールロイヤーは、いじめや体罰、虐待など困難な問題の解決に向けて、学校及び教育委員会の相談を受けることができる弁護士。

### コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

学校と地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第 47 条の 6）に基づいた仕組み。

### 新体力テスト

文部科学省が実施する体力、運動能力テスト。1999 年これまでのスポーツテストを全面的に見直し導入された。

### インクルーシブ教育

障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことを通してお互いを理解し、尊重し合う共生社会の実現を目指す教育。

### **スクールソーシャルワーカー**

様々な課題を抱える児童・生徒の置かれた環境への働きかけや、学校と関係機関等とのネットワークの構築・保護者や教職員等に対する支援や相談、情報提供等を行う社会福祉士。

### **指導協力員**

教員免許状を有し、学校等において、児童等を指導する教員を補助するとともに、当該児童等への学習指導を行う職員をいう。

### **教育支援員**

学校等において、障害等の理由により特別な教育的支援を必要とする児童・生徒を指導する教員を補助するとともに、当該児童・生徒の教育活動を支援する職員をいう。

### **レファレンスサービス**

利用者が必要とする情報・資料を図書館員が検索・提供・回答する業務。

令和4年度（令和3年度対象）

## 教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 教育部 学校教育課

〒255-8555 大磯町東小磯 183

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/index.html>

発行 令和4年11月